

静岡県 コロナ禍一年パパママアンケート調査報告書

NPO法人母力向上委員会



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

調査概要

【背景】

2020年3月以降のコロナ禍において、社会的な不安が母子に与える影響に懸念を抱き、様々な形を模索し支援事業を継続してきた。オンライン・対面に関わらずDVや不眠・うつ傾向などのケースに出会い、これまでにない深刻な内容にコロナの影響により表出したものではないかと考えた。相談で対応できたケースはごく一部であり、地域にはもっと多くの方が苦しい状況に陥っているのではないかと、人生の中の大きな変革期である対象者に対し、特に大きな影響を与えるのではないかと考え調査を行うこととした。

【目的】

1. 現状の生活状況、育児困難感、外出の状況などに関する実態を調査し、富士・富士宮を中心として県内各所の現状と課題、必要な支援について把握する。
2. 調査結果を県内の子育て支援関係者と共有することで各所における今後の子育て支援に活かす。

【調査方法】

2020年10月1日～2021年11月15日にgoogleフォームによるWEB調査を行った。対象者は2021年10月時点で妊娠中又は4歳未満児を子育て中の静岡県在住の男女とし、NPO法人母力向上委員会が県内各所の子育て支援団体の協力を得て実施。静岡大学人文社会科学部白井千晶教授に監修いただいた。回答数：380件 有効回答数 366件であった。

【結果】

○約9割の人が家にいる時間が増えている。約3割が2～3日に一度以下の外出頻度である。コロナ前後で世帯収入は3割弱の人が減少している。また4割の人は生活にゆとりがなく苦しい状況である。パートナーとの関係性は3割の人に悪い影響があった。5割弱の人が精神的健康状態が低い状態に陥っていた。特に働いている、祖父母と同居している、ママ友がいない、コロナ禍でのサービス利用がない、パートナーとの関係性が悪化している人達にこの傾向が確認された。

○8割の人が「子どもと一緒に遊びに行ける場所が無くなった」、3割の人が「子どもという時間がストレスに感じる」と回答。コロナ禍でサービスを「利用しなかった」と回答。祖父母が遠距離にいる人は帰省ができず近隣でも祖父母宅に身を寄せることができず自宅以外の居場所がない。

○約7割が他の子育て中の人との出会いや交流が無くなったと回答。相談先や頼り先を持たないひとは精神的健康状態が悪い傾向にある。ママ友というピアサポーターの存在はセーフティネットになり得ているが、コロナ禍では周りのママの様子が分からないと5割弱が回答。

【結論】

精神的健康度を低下させない支援のポイントとして①対象に合わせた選択肢があること②子育てを共感し分かち合う仲間の存在があること③子育てをしながらも安心して働ける柔軟な職場や預け先があることの3つが導き出された。

【提言】

3つのポイントを実現するために支援団体・行政・企業に対し以下を提案する。

支援団体：①支援の場を止めない。②可能な限りオンラインも含めた様々な手法で選択肢を持たせる。③実際の利用につながる情報発信を心掛ける

行政：①相談窓口・支援窓口などは対象者の日常導線上に設定を。②実践例やモデルケースとなり得る情報を集約し、いつでもアクセス可能に。③選択肢を提供できる支援団体の継続運営に繋がるよう経費補助や環境整備等の支援を行うこと。

企業：①子連れ出勤できる環境整備。②家事サポートや産前産後ケアが福利厚生の対象となる。③父親の産休育休確保。

目次

第一章 コロナ禍一年パパママ実態調査の目的と概要

I 本調査の研究の目的と背景	2
II 本調査の実施内容	
III 本調査の結果の概要	3
1 調査の概要	
2 結果の概要	
3 考察	12
IV 提言	13

第二章

I 基本的集計結果	
1 基本属性について	15
2 現在の生活状況	17
3 親の気持ち	18
4 相談状況	21
5 ピアの可能性について	22
6 頼り先について	23
7 外出状況	26
8 支援の実状	27
9 支援ニーズについて	27
10 パートナーとの関係	28
11 コロナ禍の育児について	29
II 分析結果	
1 地域別の特性	33
2 属性別の精神的健康状態	
3 就労状況を中心とした視点	35
4 祖父母との距離を中心とした視点	37
5 ママ友の有無を中心とした視点	38
6 父親を中心とした視点	41
7 妊婦を中心とした視点	42
8 パートナーとの関係を中心とした視点	43
9 コロナ禍の産後を中心とした視点	44
10 頼り先の有無を中心とした視点	44
III 調査票	47

第1章 コロナ禍一年パパママ実態調査の目的と概要

I 本調査研究の目的と背景

2020年3月以降のコロナ禍において、社会的な不安が母子に与える影響に懸念を抱き、様々な形を模索し支援事業を継続してきた。特に、不安のケアと外出制限などによるストレスの増加による虐待予防の必要性を感じ、個別相談に力を入れた。その結果としてZOOMなどのオンラインや対面に関わらず、子どもに対するイラつき、パートナーからのDVに関する相談や不眠・うつ傾向等これまでにあまりない深刻なケースに出会った。一人一人から語られる内容はコロナの影響により表出した問題ではないかと考えた。個別に対応できたケースはごく一部であり、実際の地域にはまだ表出されていないもっと多く課題があるのではないかと、多くの方が苦しい状況に陥っているのではないかと、人生の中の大きな変革期である対象者に対し、特に大きな影響を与えるのではないかと考え以下の目的で調査を行うこととした。

【目的】

1. 現状の生活状況、育児困難感、外出の状況などに関する実態を調査し、富士・富士宮を中心として県内各所の現状と課題、必要な支援について把握する。
2. 調査結果を県内の子育て支援関係者と共有することで各所における今後の子育て支援に活かす。

II 本調査の実施内容

1. 調査概要

本調査研究では、静岡県内を対象とし主に浜松市・静岡市・富士宮市・富士市を中心に活躍中の子育て支援団体に協力いただき、2021年10月時点で妊娠中から4歳未満児を子育て中の男女を対象としてWEBアンケートを行った。独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業『今を支えて未来を創る子育て環境デザイン事業』の一部として、NPO法人母力向上委員会が実施主体となり、静岡大学人文社会科学部の白井千晶教授にアドバイスをいただきながら以下の手順により取り組んだ

〈調査手順〉

- (1) コロナ禍で出産した母親への先行ヒアリング
- (2) コロナ禍1年の子育てにおける課題とニーズの仮説の導出
- (3) 量的調査としての対象者への調査内容と質問項目の検討と決定、調査の実施、結果のとりまとめ
- (4) 質的調査としての自由記載内容に関する分析
- (5) 各地域の協力団体への結果共有及び分析を目的としたヒアリング
- (6) 量的調査・質的調査・ヒアリング結果の分析・検討
- (7) 考察

〈調査対象〉

2021年10月時点で妊娠中又は4歳未満児を子育て中の静岡県在住の男女

〈調査方法〉

- ① 量的調査・質的調査：googleフォームを用いたWEBアンケート
- ② ヒアリング：子育て支援団体3団体に対しZOOMにて実施

〈回収結果〉

- ① 量的調査：対象者より 380件 有効回答数 366件
- ② ヒアリング：支援者 3人

〈調査期間〉

- ① 量的調査：2021年10月1日～2021年11月15日
- ② ヒアリング：2022年2月2日～2月4日

調査項目

基本的属性	問1	居住市町
	問2	年齢
	問3	妊娠・子育て中・母・父の別
	問4	こどもの人数
	問5	子どもの年齢
	問6	通園・通学状況
	問7	家族構成
	問8	パートナーとの状況
	問9	祖父母世帯との距離
	問10	現在の仕事の状況
現在の生活状況	問11	コロナ前後でコロナの影響による仕事における最も大きな変化
	問12	コロナ前後でのコロナの影響による世帯収入変化
	問13	現在の経済的な暮らし向き
親の気持ち	問14	WHO-5精神的健康状態
	問15	コロナ禍の妊娠・子育ての困り事
	問16	コロナ禍の妊娠・子育てでの不安
	問17	コロナ禍の妊娠・子育てで感じた孤独
相談	問18	項目別相談先
	問19	コロナ禍での相談できる人・ママとの出会いのきっかけ
	問20	コロナ禍での相談スタイルニーズ
ピア	問21	行き詰まっていると感じた人の有無
	問22	行き詰まっていると感じた時の対処
頼り先	問23	項目別頼り先
外出状況	問24	在宅時間の増減
	問25	現在の外出頻度
	問26	こどもとの外出先
支援の実状	問27	コロナ禍で受けた支援
支援ニーズ	問28	子育てを学んだ学生の存在は助けるなるか
	問29	町中における子育て理解者・サポート実践者の存在と子育て感
	問30	地域限定の子育てオンラインコミュニティについて
	問31	望むサービス・サポート
	問32	希望する妊娠・出産・子育てに関する情報取得先
	問33	コロナ禍におけるパートナーとの関係の変化
	問34	コロナ禍1年における感じたこと、相談など

Ⅲ 本調査の結果の概要

本調査の詳細は、第2章で詳しく述べる。本章では結果の概要のみを記載する。

1 調査の概要

(1) 仮説の設定

対象者への調査票の質問項目の作成にあたり、対象者のコロナ禍での影響に関する仮説=視点を以下のとおり設定し質問項目を検討した。

- 視点1 コロナで外出できず家籠り率が上昇しているのではないか？家籠りだけでなく、経済、パートナーとの関係など様々な影響により不安・うつ状態などになっていないか？DVが増えていないか？
- 視点2 コロナになったことでこれまでのようにサロン・支援センター・ひろばなど行けず、居場所を喪失しているのではないか？
- 視点3 コロナで他者とのコミュニケーションが減少してはいないか？そのことで受援頻度が下がってはいないか？

(2) 質問項目

質問項目数は34とした。10項目の基本的属性に続き、現在の生活状況を問う3項目設定し、次に対象者の対象者の気持ちとして4項目、精神的健康状態測定尺度WHO-5を用い、次いで困り感・不安感・孤独感の3項目を設定した。

次に対象者の相談状況に関する質問が3項目、ママ友をピアサポーターと仮定しピアの可能性に関する質問を2項目、頼り先と現状を問う項目、外出状況に関する項目、支援の実状に関する項目に支援ニーズを問うものとして5項目、最後にパートナーとの関係に関する項目を問い、自由記載の項目を設定した。

* 調査票は巻末に掲載。

(3) 回収結果

回答者数：380件（全てインターネット調査による）
有効回答数：366件

2 結果の概要

(1) 3つの視点より

今回のWEBアンケートより得られた結果から3つの視点について分析した結果の概要は次のとおりである。

視点1 コロナで外出できず家籠り率が上昇しているのではないか？家籠りだけでなく、経済、パートナーとの関係など様々な影響により不安・うつ状態などになっていないか？DVが増えていないか？

家籠り率は上昇している。

在宅状況（グラフ24）及び外出頻度（グラフ25）に関するグラフより、約9割の人が自宅で過ごす時間が増えていることが分かったと同時に、3割以上が2～3日に一度以下の外出頻度であることが分かった。更に6割以上の人が毎日外出をしているものの、園への送迎や買い物などの必要最低限の外出や、散歩など感染対策をした上での気分転換の外出に留まっていることが分かった。（グラフ26）

世帯収入の変化（グラフ11）と暮らし向き（グラフ12）に関するグラフより、コロナ前後で3割弱の人が世帯収入が減った或いは大幅に減っていることが分かった。更に4割の人はゆとりがなく苦しい状況であり、生活や精神的なストレスがかかっていることが分かった。

次にパートナーとの関係の変化に関するグラフ（グラフ33、65、66）からは、3割がパートナーとの関係に悪い影響があったことが分かった。グラフ、自由記載から読み取るにその内容は相手に不満を感じるが多くなった、子育てや家事の負担が増えた、会話が減った、暴言・暴力があったなどであり、在宅勤務や自粛生活による息詰まり感の影響、コロナに対する価値観の違いからの言い争いなど、直接的に最も身近な相手としてのパートナーに及んでいることが伺え、子どもへの影響も懸念されるところである。更に、グラフ67からは4ポイントの75%をWHO-5が13点未満が占めるなど、パートナーとの関係が悪化するに伴い精神的健康状態も悪化する状況にあることが伺え、より深刻なケースがあることが分かった。

精神的健康状態について、今回指標としたのはWHO-5とした。一般的に産後うつ指標として活用されているのはエジンバラ産後うつ病質問票であるが、今回は対象が妊婦から4歳未満児を育てている男女であるということ、全体質問数が34項目あるということにより簡易かつ有用性が認められているWHO-5を用いた。全体的な結果としては精神的健康状態が低い状態を示すスコア13未満に5割弱の人が該当した。また、その分布としてはグラフ14からも確認できるとおり、より低いスコアの者も存在しており、自由記載の内容からも危機的状況も懸念される。

本調査においてはパートナーとの関係の変化に関しても暴言・暴力の確認にとどまり、DVが増えているか否かは言及できないものの、全国的には内閣府が2021年3月に公表した「男女感における暴力に関する調査報告書」においてもコロナ禍での相談件数は前年度比で約1.6倍に増加していること、更に2022年3月3日警視庁発表によると、前年度より0.5%増が確認されており、配偶者暴力防止法施行後最多を更新している状態である。

更に、2020年10月21日に発表された「コロナ禍における自殺の動向に関する分析」によると、2020年7月以降女性の自殺率が増加傾向にあると報告されたが、2021年の女性の自殺率も高止まり状態となっており、その背景に経済・DV、雇用などの問題が複合的に絡んでいるとされている。県内においても「21年度版自殺対策白書」によると同様に女性の自殺率が増加している。自由記載にも「生き辛い」「何とか毎日生きています」などの声が上がっていることや、精神的健康状態が低い者が全体の5割弱ということからも、日頃支援している対象者の中に、又は支援の場と繋がっていない中にもより深刻な状況になり得るケースがいる、と考え対処する必要があると考える。

特に、本調査においてはより精神的健康状態が低い群としての傾向が観察された。

① いずれかの祖父母と同居

祖父母との距離感においては祖父母に会えずサポートを受けることができない遠距離群の精神的健康状態の低さを予測していたが、実際はいずれかの祖父母と同居群の方が精神的健康状態が低いことがわかった。(グラフ35)同居群における困り事(グラフ46)や不安感(グラフ47)などのグラフより、高齢者との同居による価値観の違いや感染防止の配慮のためにより外出制限やそのために同じように子育てをしている人に出会う機会を喪失している状況が伺えた。

② 働いている

就労状況においてはフルタイム、時短勤務、パートナタイマー、アルバイトを含めた働いている者においてその53.1%が精神的健康状態が低く、産休中、育休中、休職中、学生、仕事はしていない者の働いていない者と比較し精神的健康状態が低い者が多いことが明らかとなった。(グラフ36)

③ 相談先がない、知らない

グラフ37より、相談できる人がいない、相談できる先を知らない者における7割弱が精神的健康状態が低い傾向が顕著に確認された。

④ 頼らない

また、グラフ38より、頼り先がある者の6割以上に精神的健康状態が高い傾向が確認されたと思に、その逆の頼らないと回答した6割弱に精神的健康状態が低いことが確認された。

⑤ 相談できる友人・ママ友がいない

グラフ39より、相談できる友人・ママ友がいない者の4割以上に精神的健康度が低い傾向が確認された。逆に、相談できる友人・ママ友がいる者の6割弱は精神的健康度が高いことも確認された。

また、コロナ禍での産後及び子育てスタート期を過ごしてきた1歳6カ月未満児のいる者において、精神的健康状態が低い傾向があるのではないかと予測していたが4割弱に留まった。

視点2 コロナになったことでこれまでのようにサロン・支援センター・ひろばなどに行けず、居場所を喪失しているのではないか？

居場所の喪失という観点ではグラフ15の困り事に関する問より、8割が「子どもと一緒に遊びに行ける場が減った」7割強が「他の子育て中の人との出会いや交流が無くなった」と回答しており他の項目より際立って回答数が多いことが確認された。

一方でグラフ27より、コロナ禍で利用したサービス・サポートとしては「子育て支援センター・サロンなど」の回答が5割で最も多く、制限がありながらも多くの者に求められていたことが分かった。しかしながら約4割弱は講座やイベント、相談などを含むいずれのサービスやサポートも「利用していない」と回答しており、居場所での時間制限・人数制限・予約制などの感染防止対策の取り組みが利用のハードルとなっていると考えられる。また同様にグラフ16より「自分の家族の健康維持」や「外出することを非難されないか」という部分で5割から6割の者が不安を抱いている上に、グラフ26からは子どもとの外出先として最も多いのが公園及びスーパーマーケットで7割弱、散歩で6割確認されたことから他者との交流が無く過ごすことが主な場での外出に留まっていることも分かった。

以上より、これまで居場所となり得ていた支援の場の利用にコロナ禍だからこそ物理的ハードルがあるとともに、感染への不安や周囲の視線という心理的ハードルの両面によりこれまで居場所となっていた場を喪失している状況にあると言える。

視点3 コロナ禍で他者とのコミュニケーションが減少してはいないか？そのことで受援頻度がさがってはいないか？

グラフ15の困り事に関する問より、約7割の人が「他の子育て中の人との出会いや交流が無くなった」と回答。人に会えず相談することをためらった者が約3割、園や支援センターに相談し辛くなった者が約2割と子育て中の人との出会いそのものと他者とのコミュニケーションが減少していることが分かる。更にグラフ17より、4割弱が「感染が不安で人に頼っていいかわからない」、約3割が「一人で子育てしなければいけない感じがする」と回答しており孤独な中で子育てをしている状況が確認された。更に、グラフ18-1からグラフ18-6では極身近な配偶者やパートナー、親がどの場面においても高く、一方で相談先として専門家を選択しての回答がどの項目においても低い事、同様にグラフ23-1からグラフ23-8の頼り先においても配偶者及びパートナー、親などが極めて多く、頼る先としてごく身近な家族への負担が大きくなっていることが懸念される。またグラフ27からは実際にサービス・サポートを利用しなかった者が4割弱いることも確認されていることから、家族以外との出会いの機会及びコミュニケーションは減少していることが分かった。特に専門家との出会い自体が減少しており支援を受けることができる頻度が減少していることが分かった。

同時に、グラフ37、38より、相談先できる人がいない、相談できる先を知らないと回答した者、頼らないと回答した者においてはその精神的健康状態はいずれも低いことが分かった。相談できる人がいない、先を知らないことで精神的健康状態が低くなっているとも考えられる。一方「頼らない」、という選択をしている者に関して注視していくと、その中に本調査の回答者である母子世帯8件の内6件が回答している状況であった（表3）。更にうち3件は結婚したことがない家庭（表4）であった。また、祖父母との距離感も遠距離の者が多く、パートナーとの関係の悪化、家計にゆとりがない状況の者も多い傾向が分かった。以上より、頼らない選択をしている者において、より厳しい状況にいる者がいることが分かったが、サービスやサポートの利用状況としては利用していない者も多く、受援力が低い状況であることも分かった。この群における相談手段としては顔の見えないオンラインツールがニーズが確認され、この群においては有効に活用ができる可能性があると考えられる。

(2) ピアの可能性

グラフ21、22においてはママ友がピアサポーターとして機能し得るということについて確認ができた。回答者の周囲にいるママやママ友で子育てに息詰まっていると感じた人がいるとの回答が3割確認された。また、ママ友が息詰まっていると感じた時の対処として、9割弱が①話を聞くと回答しており、その他②一緒に出掛ける、様子を見守る、必要そうな人や機関を紹介する、子どもを預かるなどの実際の行動が観られ、虐待予防的な意味合いで、ママ友というピアサポーターの存在がセーフティーネットになり得ていることが分かった。本来的にはインフォーマルサポートとして機能し得るはずのママ友というピアサポーターが、コロナの影響により機能出来ない状況にあることが分かった。

更にママ友の有無という視点で注視していくと、今回の調査では5割弱がこのコロナ禍において周りのママ友の様子が分からないと回答している状況である。グラフ50、51、52ではママ友の有無による困り感、不安感、孤独感に大きな差は確認されなかった。また、グラフ53、54からはママ友がいない群の方が収入の減少が確認され、家計にゆとりがなくやや苦しいが4割強、家計のやりくりが大変で生活が苦しいとの回答が6%と、暮らしぶりの悪化が確認された。また、グラフ55からはママ友いない群の6割弱が子どもがどこにも通っていない状況であること、9割弱が周りの様子が分からない（グラフ56）状況であることも分かり、孤立傾向が伺えた。

グラフ58、59からは支援ニーズとしてはママ友の有無における大きな違いは見られなかったものの、ママ友いない群においてはオンラインでの講座・イベントが25%のニーズが確認され有効であることが分かった。

(3) 支援ニーズ

属性から特徴的な支援ニーズが以下の図1の通り確認された。

図1 対象別支援ニーズ 対象者別に上位項目を○で示した。

	仲間づくり	経済支援	無料産前産後ケア	子連れ出勤	オンライン講座・イベント	柔軟対応可能な預け先	父の育休確保	安心できる外出情報
全体	○		○	○		○		○
父親		○		○		○	○	
祖父母が遠距離	○		○			○	○	
妊婦	○		○				○	
働いている				○	○	○		○
ママ友がいない			○	○	○	○	○	○
相談できない・頼らない	○		○		○	○		○

全体としてはグラフ31より観察されるように、仲間作り、無料産前産後ケア、子連れ出勤、柔軟対応可能な預け先、安心できる外出情報が求められていることが確認された。更に僅かな数字の違いではあるものの各属性、対象の特徴的なニーズも確認された。

働いている者

グラフ43より、働いている者の5割弱がいずれのサービス・支援も利用しなかったことが分かった。一方でグラフ44からは仕事をしている者においては他と比べオンラインのニーズが2割程度ではあるが高いことが確認された。時間の調整などで利便性のあるオンラインでの支援も選択肢としては求められていることが分かる。また、その他子連れ出勤、いつでも子どもを預かってもらえる柔軟な預け先、安心できる外出情報のニーズが高めであった（グラフ45）。オミクロン株の感染拡大以降、子どもでも感染者数が増加し、休園・休校の対応が必要となっている状況であり、仕事と子育ての調整が困難な状況が実際にある。

ママ友がいない者

グラフ58、59より、安心できる外出情報、父親の育休確保、柔軟な対応可能な預け先、無料の産前産後ケア、仲間作り、オンライン講座・イベントのニーズが高かった。

父親

本調査では子育て中の父親からも回答が得られた。グラフ60からは経済的支援へのニーズが高い他、柔軟対応可能な預け先、父の育休確保が求められた。父親の働き方も変化があった中で父親の子育てに対する主体性の高まりの現れとも考えられる。

妊婦

同じように子育てをしている人に出会えるかを不安を抱いていたこと、祖父母のサポートが得られにくい状況であることもあり、仲間作り、無料産前産後ケア、父の育休確保が求められていた。

また、母数が少なかったが多胎・医療ケアなど多様な子育てをしている者の支援ニーズとしては多くの選択肢を選択する傾向がみられた。現状として支援の不足が懸念される。

当事者を取りまく外部環境の在り方として

グラフ28、29、30において子育て当事者を取りまく外部環境の支援ニーズが得られた。7割強が子育てについて学んだ学生の存在は子育ての助けになると回答。また、9割強が子育てを理解し声掛けや手を貸してくれる人が町中にいると子育てしやすいと感じると回答していることから、当事者以外に対しても子育てに対する理解やサポートのポイントを伝えるアプローチは子育て当事者に対し精神的・物理的な負担軽減となり得ると考えられた。

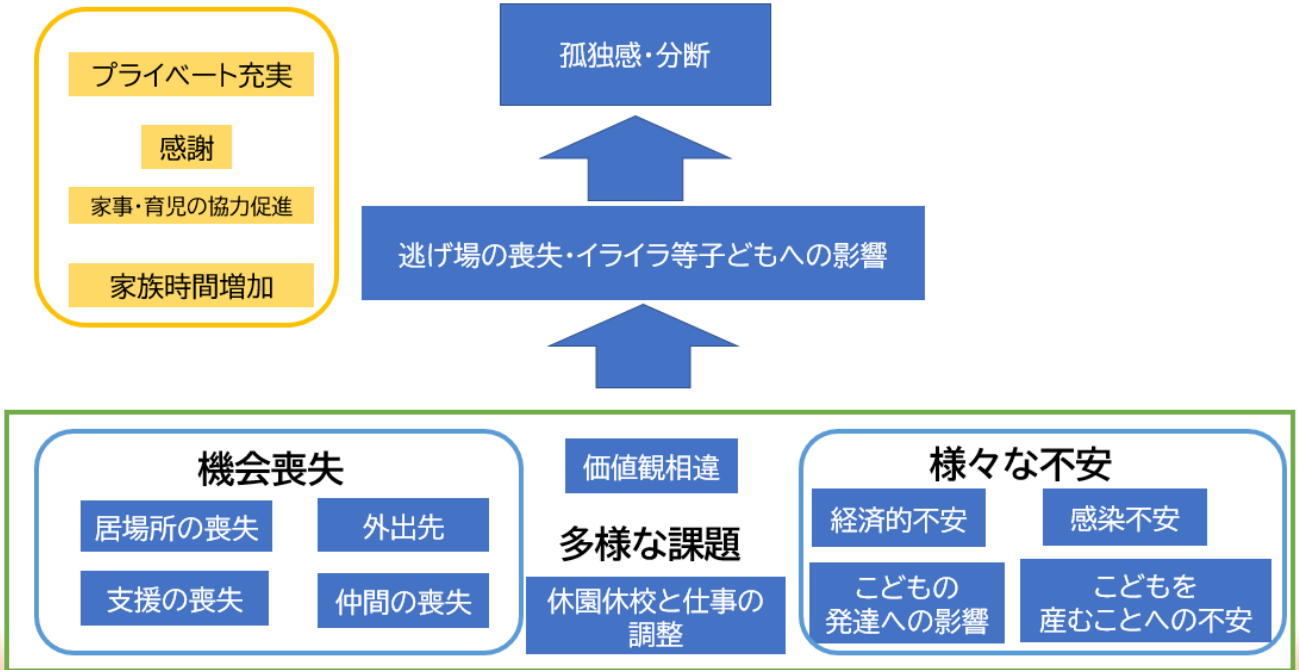
更に、オンラインコミュニティの利用に関し6割が利用したいと回答。対面でのつながりを持つことが困難な現在だからこそではなるが、産後外出困難期においても外部とつながる手段としてオンラインコミュニティは支援の選択肢として存在することは好ましいと言える。オンラインについては全体としての情報収集が困難なため対象者の抱える課題に対するアセスメントに若干のハードルがある、つながりをもつためのきっかけにはなり得る。また社会状況において、対象者の背景においては有効なツールとなると考えられる。

(4) 自由記載の分析

本調査において自由記載は232件の回答が得られた。この自由記載の内容毎にキーワードを抽出し、内容の類似性に基づき表札を付帯しKJ法により分類作業を行い、表札間の関係性を考察し図解化した。

図2

自由記載ラベリング分析 コロナ禍1年子育てスタート期の現状



実際の居場所の喪失や支援が途絶えたことにより仲間づくりの場や相談先を失う現象が発生。

更に感染への不安から外出できないこと、帰省したり親族などに会えないことなどよりストレスが蓄積これらは逃げ場の喪失体験となり、子育ての辛さやイライラ、不安感など心への影響が大きく、子どもにあたってしまう、子育ての辛さなど子どもへの影響となって現れている。

また、職を失う等のコロナでの直接的な経済的ダメージや職場のコロナ対策、園や学校のコロナへの対応の違いや職場との調整に不満が蓄積している様子がうかがえる。

実際に人との距離感が発生していること、価値観などの違いも発生していることによる孤独感の増幅がうかがえる上にコロナ感染に関する先が見えない社会に希望が持てないなどという言葉まで届いている。

一方で、このような状況で、これまで当たり前だった物事に対する有難みを感じているものもいる。リモート等仕事形態の変化も良い影響と捉え、出来る工夫をする等している者たちもいることが分かった。

問33までの結果からも、精神的健康状態が低い状態の者が5割弱いる中で、よりスコアが低い状態の者もいることも確認されており、「正直疲れました」「毎日辛いです」「何とか毎日生きています」「息が詰まりそうで子供も親も苦しい」等自由記載からはより深刻な状況が伺えた。コロナに対する価値観の違いなどにより毎日言い争うなど夫との関係が悪化する者や離婚に至った者おり、その場にいる子どもへの影響も懸念されるところである。

本調査の実施時期は緊急事態宣言後であったため、その影響もあることは予測されるが更に時間が経過している2022年3月現在、未だ感染状況としては終息せず、コロナ禍での生活に慣れつつあるものの乳幼児の感染者数も増えている現状からこれらの更なる悪い影響が懸念されるところである。

3 考察

本調査の実施時期はコロナ禍1年半経過した2021年10月であった。この時期は東京オリンピック開催後であり9月28日に緊急事態宣言が開けた直後に当たる。コロナ禍の感染の波を乗り越えながら、緊急事態宣言の中で大きくストレスを抱えていた対象者の姿が浮き彫りとなった。大きな地域差は無かったものの、行政による対応の違いや地域による産業構造の違いなどによる影響も可能性としては考えられる中、どのような環境であっても懸念されるポイントを本調査の結果と分析より以下4つを今後の課題と設定した。

- # 1 ママ友不在・相談できない・頼らない人の精神的健康度の低下
精神的健康状態の低い者の傾向の中でも特にピアサポーターとしてのママ友がいない者、相談できない者、頼らない者においては孤立状態であることが予測され、自身によるSOSの発信にハードルを抱えている傾向から虐待又は自死のリスクが高いものとする。
また、これらのSOSを発信しない、出来ない者の背景としては被虐待経験やDV被害による自己肯定感や自尊感情の低下、思考停止状態にある、など自己を守るための力の低下が考えられる上に、コロナ禍において5割弱の人の精神的健康度の低下という状況より多くの深刻なケースの予備軍が存在することも考えられる。
対象者に会った最、支援に繋がった際にはこれらのポイントを確認するなどの手段があることで早期から予防的な対応が可能となると考える。
- # 2 機会の喪失による受援力の低下と孤立化
コロナ禍以前であれば当たり前のようにあった様々な機会が失われていることで、何に頼ったらいいかわからない者や周囲との人間関係の構築、支援者との繋がりも失われている状況があり、それらにより個人の能力に関わらず受援力が低下してしまう環境にあると考える。支援への警戒心が支援の拒否行動となるケースもあるが、誰に頼ったらいいかわからない状況、受援力が低下している状況がある、という背景および繋がりへの欠如による孤立化も進行していることは意識して支援環境、支援関係をデザインする必要があると考える。
- # 3 不安と利用制限による支援機関への初回利用の遅延
感染不安による利用自粛と、支援機関の感染防止対策による利用制限が主に外出を伴う支援機関の利用時期を遅らせている。産後、外出可能時期となったとしても物理的、心理的なハードルにより支援者・子育て仲間・居場所との繋がりをつくりにくい状態となっている。在宅支援が手厚い地域であれば支援者とつながることも可能であるが、地域によって支援体制には違いがあり、在宅支援を利用しない者は孤立しやすい状況である。
- # 4 # 1～# 3による個人課題の深刻化とこどもへの影響
コロナの感染状況が未だ終息しない中で社会の状況も変化が激しく日常的に多くのストレスに曝されている状況であり、経済状況や精神的健康状態など個人の課題がより深刻化しやすい状況でもある。そのような中で、家庭の内外において最も影響が及びやすいのは小さなこども達である。こども達への影響を回避するためにも今一度社会全体、地域全体でこどもの育ちをサポートする体制が必要である。

一方で、コロナ禍を過ごしたことで日々当たり前であったものへの感謝と気づきを得て、変化をプラスに捉え過ぎている者もいる。それらの者がどのようにプラスに捉え直しをしたのかについては別途調査が成されることが望ましいが、本調査の結果より頼り先、相談先があること、ママ友がいることは精神的健康状態を低下させないポイントになり得ると言えるとともに、人とのつながりがない事でストレスを感じにくい状態で過ごすことができたという価値観があることも特筆しておく。煩わしい人間関係やその調整などがない事による変化であると考えられるが自身のペースを保つことができると捉えることができた場合はプラスに捉えコロナ禍出あっても疲弊感なく過ごすことができているようであった。

しかしながら、全体の5割弱が精神的健康状態が低いという現実を重く捉え、今後の子育て支援の在り方について検討した。

IV 提言 これからのコロナ禍子育て支援施策

今回の対象者の精神的健康状態より、より低い群は全体の5割弱でその傾向が就労している、祖父母と同居している、ママ友が不在、サービスを利用していない、相談先がない、頼り先がない、頼らない、であることが考えられた。

更に、支援ニーズからは①対象に合わせた支援の選択肢があること、②子育てを共感し分かち合う仲間が存在があること、③子育てをしながらも安心して働ける柔軟な職場や預け先があることが精神的健康度を低下させないポイントとなると導きだし、各支援機関には次のように働きかけることを提案する。(図3)

当事者をとりまく支援団体、行政、ピアサポーター、企業など相互に連携をすることで、多面的に支援をしている現状があると捉えられる(図4)

【支援団体】

今回多くの団体が手探りの中、使命感で動いていたことが分かった。

- ①最も大事なのは支援の場を止めない
- ②どのような状況でも対応できるように、可能な限りオンラインも含めた様々な手法で選択肢を持つ
- ③必要な時期に実際の利用に繋がるような、行動に繋がる情報発信を心掛ける

【行政】

今回も様々な相談窓口を設けて対応しているが、より相談できる状況をつくるためにも

- ①窓口をスーパーや公園など対象者の日常導線上に設定をする
- ②様々な団体が試行錯誤した実践例やモデルケースとなり得る情報を集約し、アクセス可能に
- ③選択肢を提供できる民間団体に対し支援の継続を目的とした経費補助や環境整備などのバックアップ

今回は行政も通常とは違う緊急対応が重なり大変な2年を経過している状況である。

そのような中で、行政が対応困難、或いは感染防止の観点から中止やむなしとした支援に関し民間団体がそこを補うべく頑張っている状況も各所で観察された。支援を止めないためにも様々な選択肢の提供を前提とした委託化が望まれるとともに連携を図ることで多面的に子育て層を支えていくことが重要である。

実践例としてはA市では2020年4月当初オンライン対応困難ということで、地域の支援団体に対し実証実験の一部としてオンラインによる個別相談、講座などを委任。緊急的に予算化が進められ支援員や事務局体制も整い個別相談やオンライン対応が可能となった。

産後ケアとしての訪問支援やデイケアなどに関し、行政体によって経費補助の対応が異なっている。祖父母の支援が受けにくいコロナ禍であること、感染対応による制限など居場所などの利用のハードルから、各市において訪問支援やデイケアへのニーズが高まっている状況がある。利用者は補助枠を超えてでも実費負担が生じているケースもある。補助対象となっていない市町は予算を確保し必要とする対象者が経済不安なく利用できるような整備が必要である。

環境整備という点では現在予防接種も進んでいますが産前産後の子育て支援の場も非常に重要ななくてはならない場であり、そこに関わる人財はEssentialワーカーであると捉えていただきたい。

今回も感染のリスクを抱えながらも支援を止めずに現場をまわっていたことを考えると

今後このような状況においては予防接種など優先度を上げて安全に運営できるよう整備が望まれる。

【企業】

今回は仕事の継続と預け先の確保で今なお大変な状況にある保護者がいる中で男性も女性も仕事をより仕事を継続しやすくなりパフォーマンスを上げるためにも

- ①子連れ出勤や福利厚生
- ②福利厚生としての家事サポートや産前産後ケア
- ③父親の産休育休確保

コロナ禍における妊娠・出産・子育てはより危機的状況に陥りやすいという理解のもと、必要な支援を届けるために支援者と対象者の関係構築、対象をとりまく環境構築として支援者・行政・企業それぞれがその強みを活かして支えていく必要性に対し以上の点においての理解及び協力を求める。

図 3

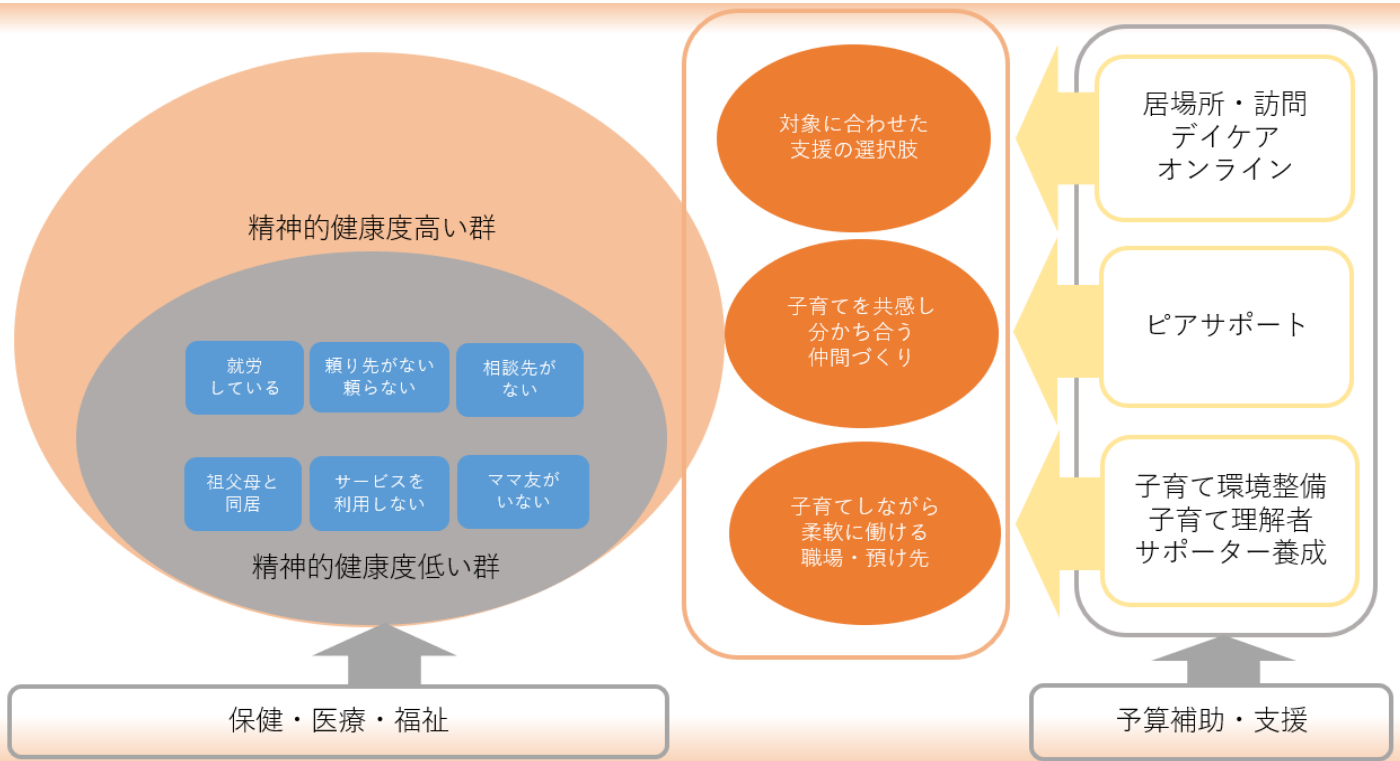
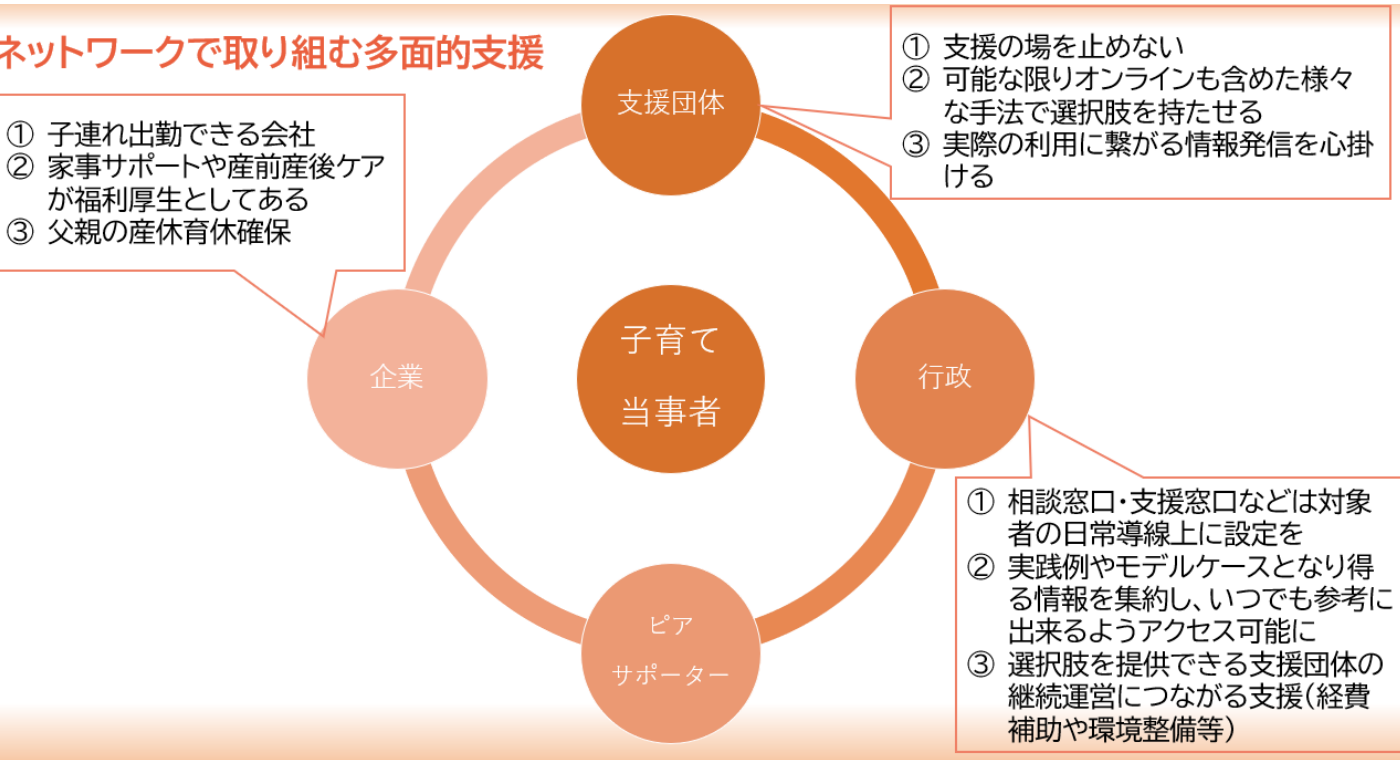


図 4



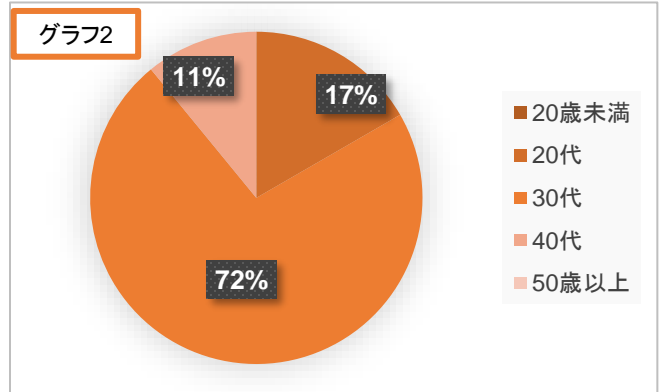
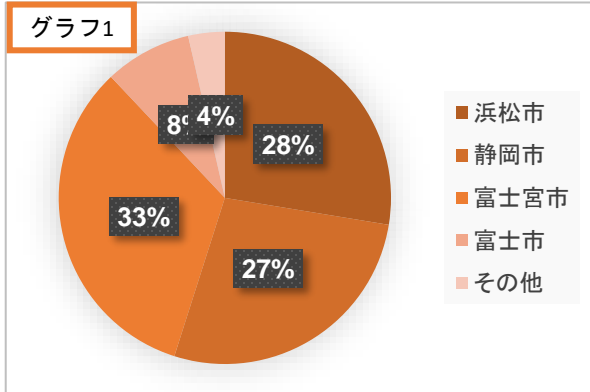
第二章 調査結果

I 基本的集計結果

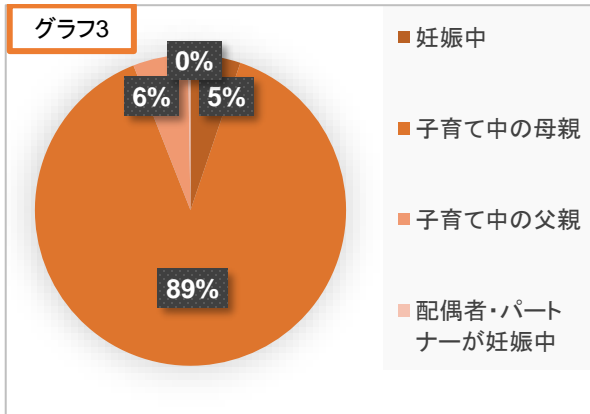
1 基本属性について

約9割が子育て中の母親からの回答。1歳未満児を育てている家庭が132件、コロナ禍での産後を過ごした1歳6か月未満児は192件。回答者の全子どもの人数は589人でうち在宅保育が4割という状況だった。

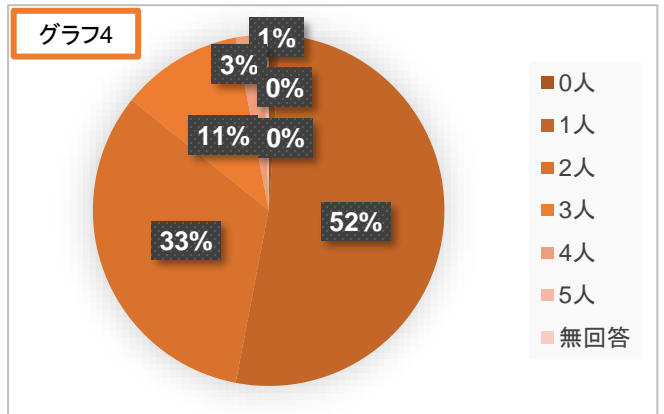
問1 あなたのお住まいの市町を教えてください。 問2 あなたの年齢を教えてください。



問3 あなたの状況を教えてください。



問4 お子様の人数を教えてください。（対児は除く）



問4 それぞれのお子さんの年齢を教えてください。

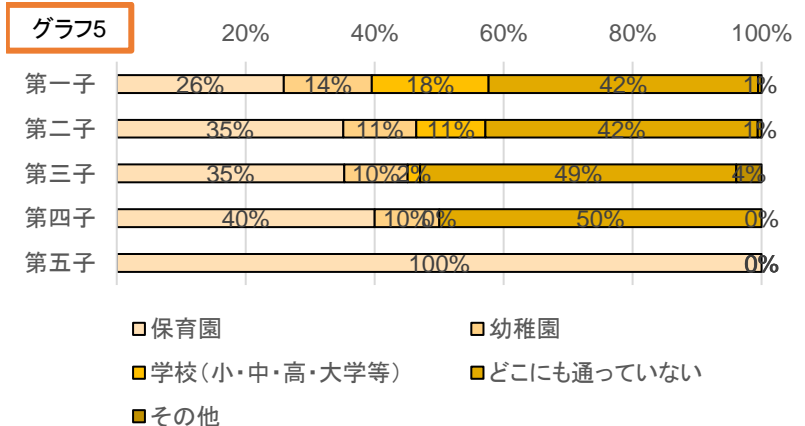
表1

	0ヶ月～5ヶ月	6ヶ月～11ヶ月	1歳0ヶ月～1歳5ヶ月	1歳6ヶ月～1歳11ヶ月	2歳0ヶ月～2歳5ヶ月	2歳6ヶ月～2歳11ヶ月	3歳0ヶ月～3歳5ヶ月	3歳6ヶ月～3歳11ヶ月	4歳以上
第一子	23	51	40	42	22	16	24	22	121
第二子	21	18	17	18	16	14	14	15	36
第三子	6	11	3	10	3	6	5	3	4
第四子	0	2	0	1	1	0	2	0	1
第五子	0	0	0	1	0	0	0	0	0

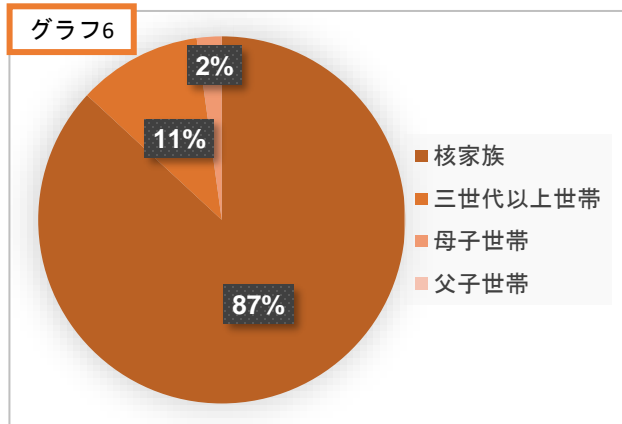
問5 それぞれのお子さんの通園・通学状況を教えてください。

表2

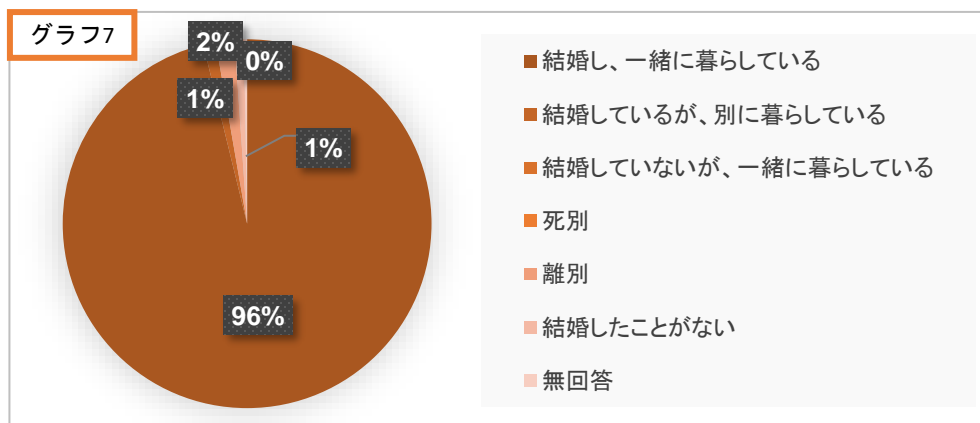
	保育園	幼稚園	学校（小・中・高・大学等）	どこにも通っていない	その他
第一子	93	49	65	150	2
第二子	59	19	18	71	1
第三子	18	5	1	25	2
第四子	4	1	0	5	0
第五子	1	0	0	0	0



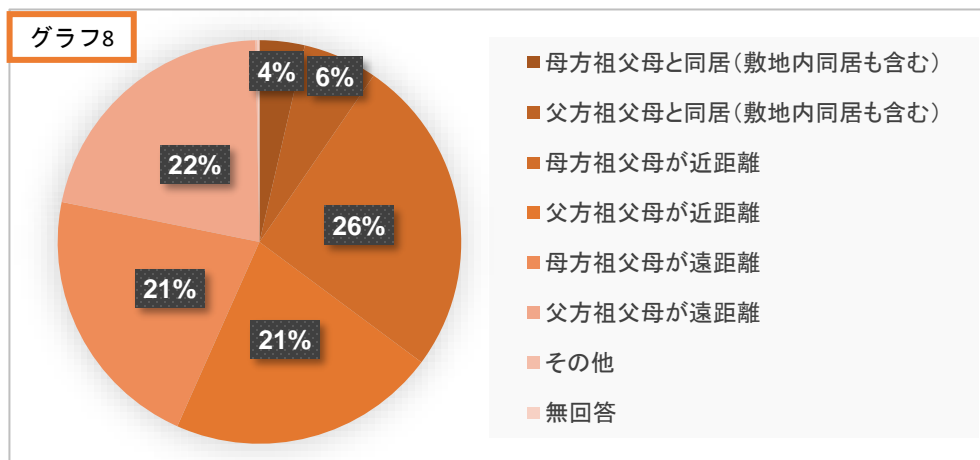
問7. 家族構成を教えてください。



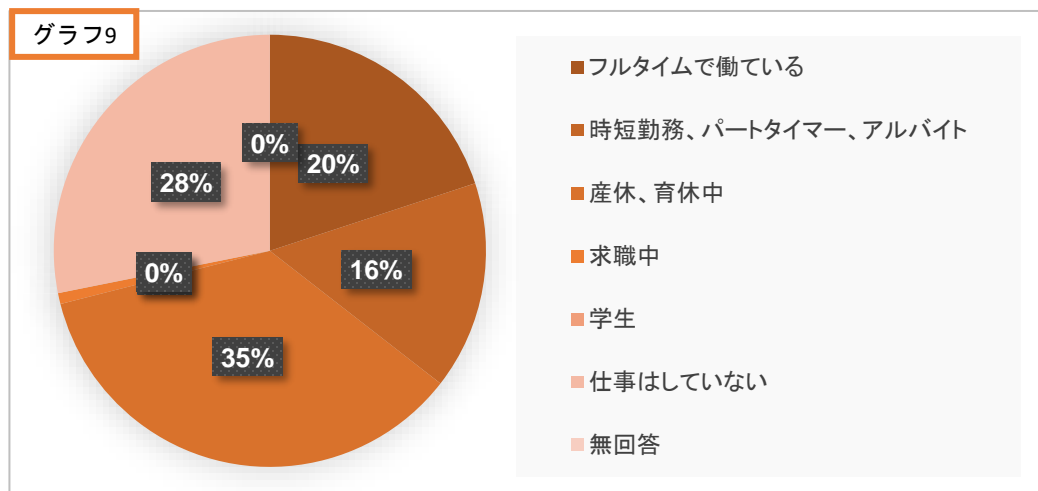
問8. あなたとパートナーとの関係を教えてください。



問9. 祖父母世帯との居住地の距離を教えてください。



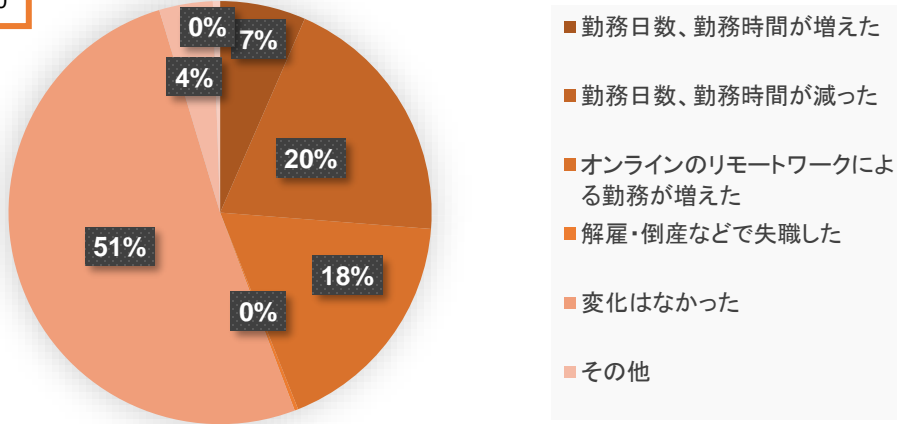
問10. 現在仕事はしていますか？



2 現在の生活状況

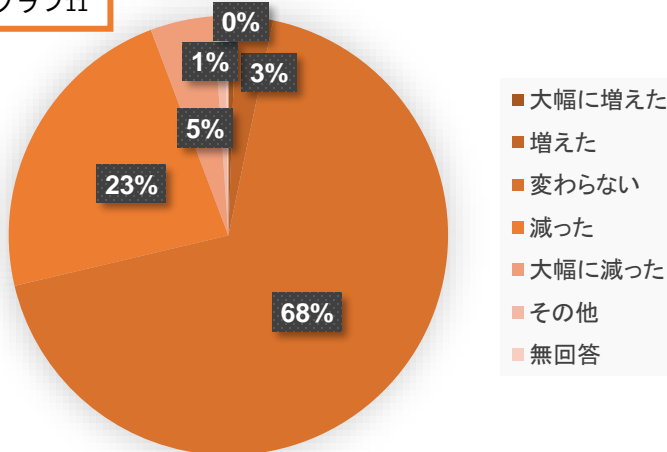
問11 コロナ前後でコロナの影響によるあなたや配偶者、パートナーの仕事における最も大きな変化は何でしたか

グラフ10



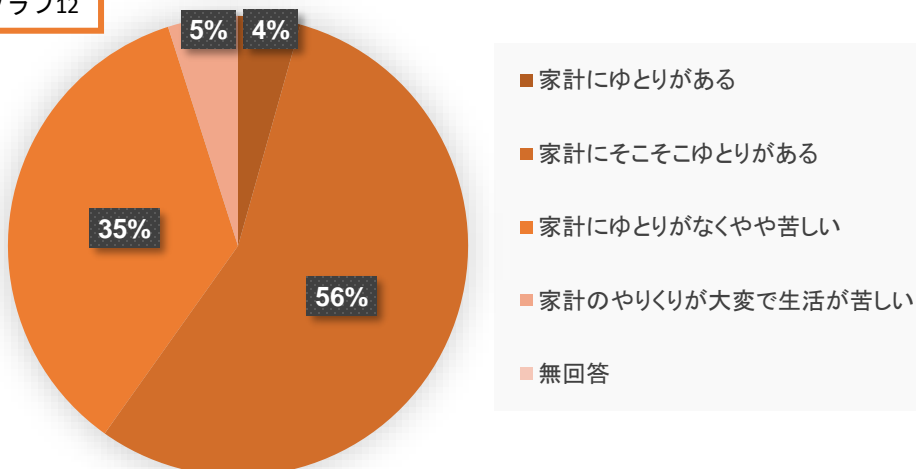
問12 コロナ前後でコロナの影響であなたの家族の世帯収入に変化はありましたか？

グラフ11



問13 現在の経済的な暮らし向きを教えてください。

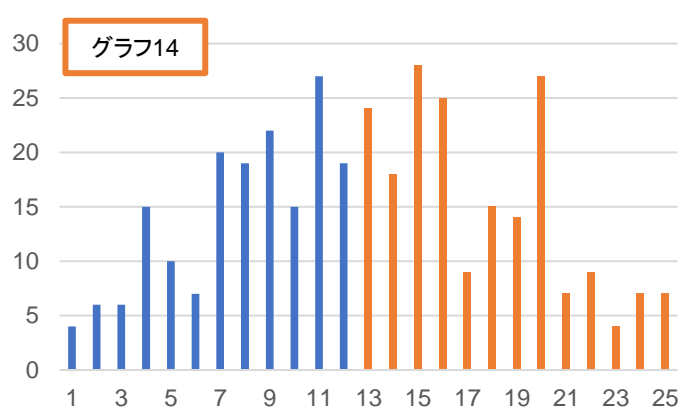
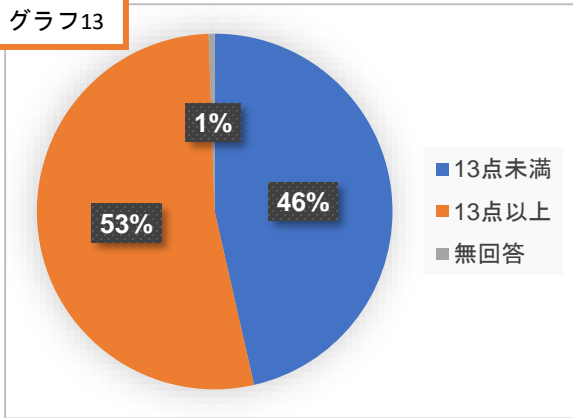
グラフ12



3 親の気持ち

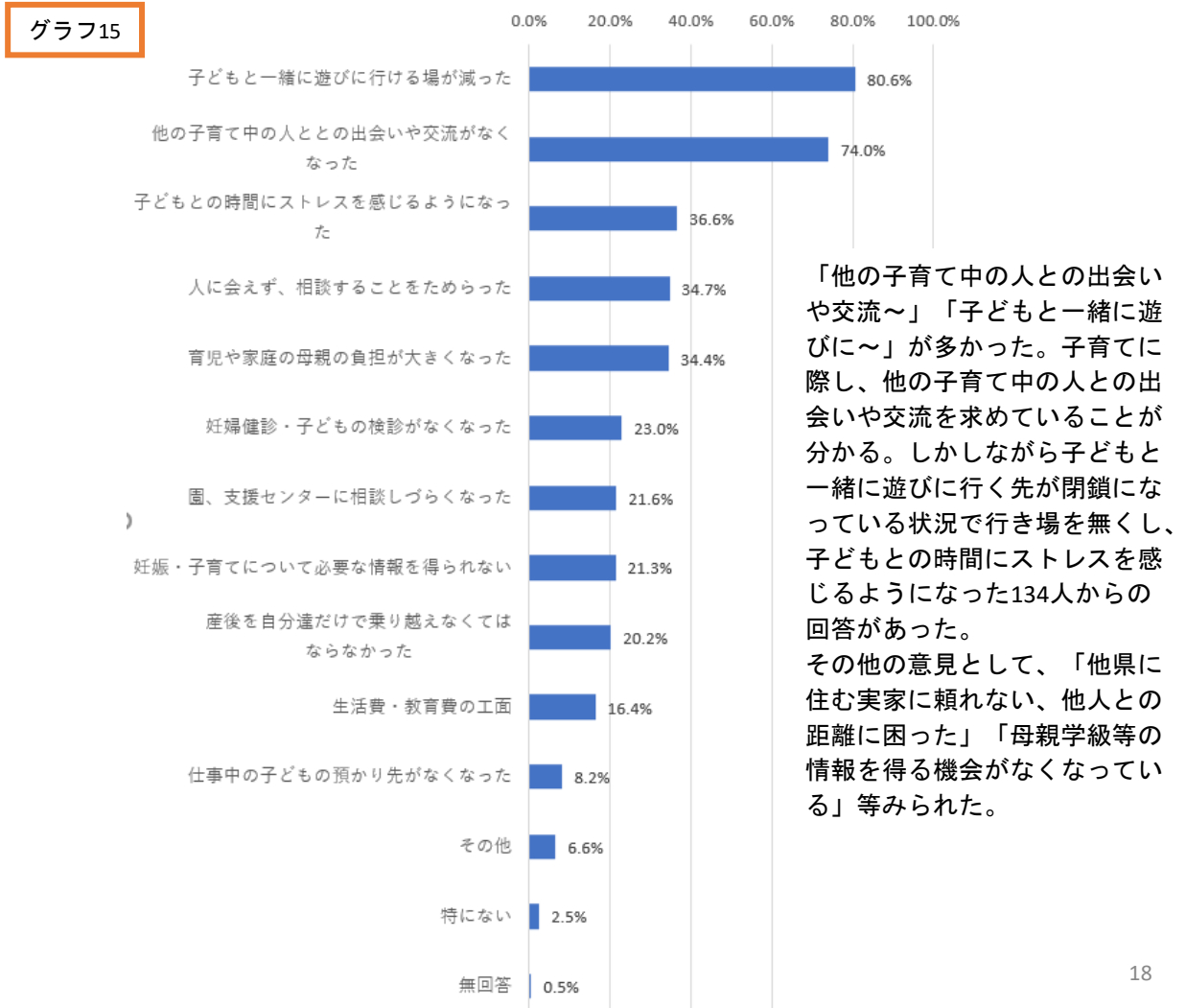
問14以下の5つの各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください。
(WHO-5精神的健康状態表(1998年版)利用)

①明るく楽しい気分で過ごした②落ち着いたリラックスした気分で過ごした③意欲的で活動的に過ごした④ぐっすりと休め気持ちよく目覚めた⑤日常生活のなかに興味があることがたくさんあった。の5項目に対し、「いつも」～「まったくない」の6件方でそれぞれに5～0点を配し粗点の合計を割り出した。0～12点が精神的健康状態が低い状態を示し最も不良は0点。13点から25点が精神的健康状態が高い状態を示し25点は最も良好であることを示す。

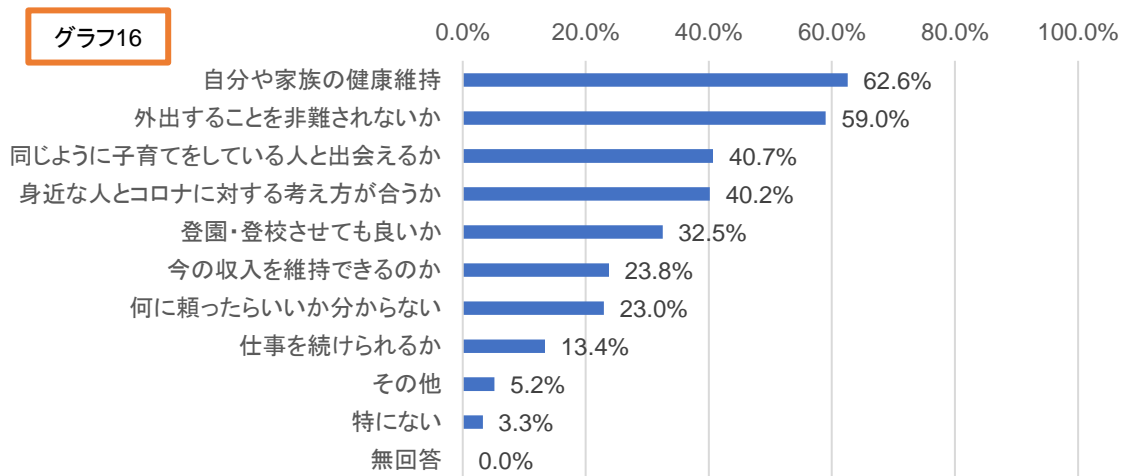


5割弱の人が精神的健康状態が低い状態に陥っている。スコアの分布や自由記載より、危機的状況も懸念されたため、以降、各質問とのクロス集計を行い分析した。

問15 コロナ禍の妊娠、子育てでどんなことに困りましたか？(複数回答)

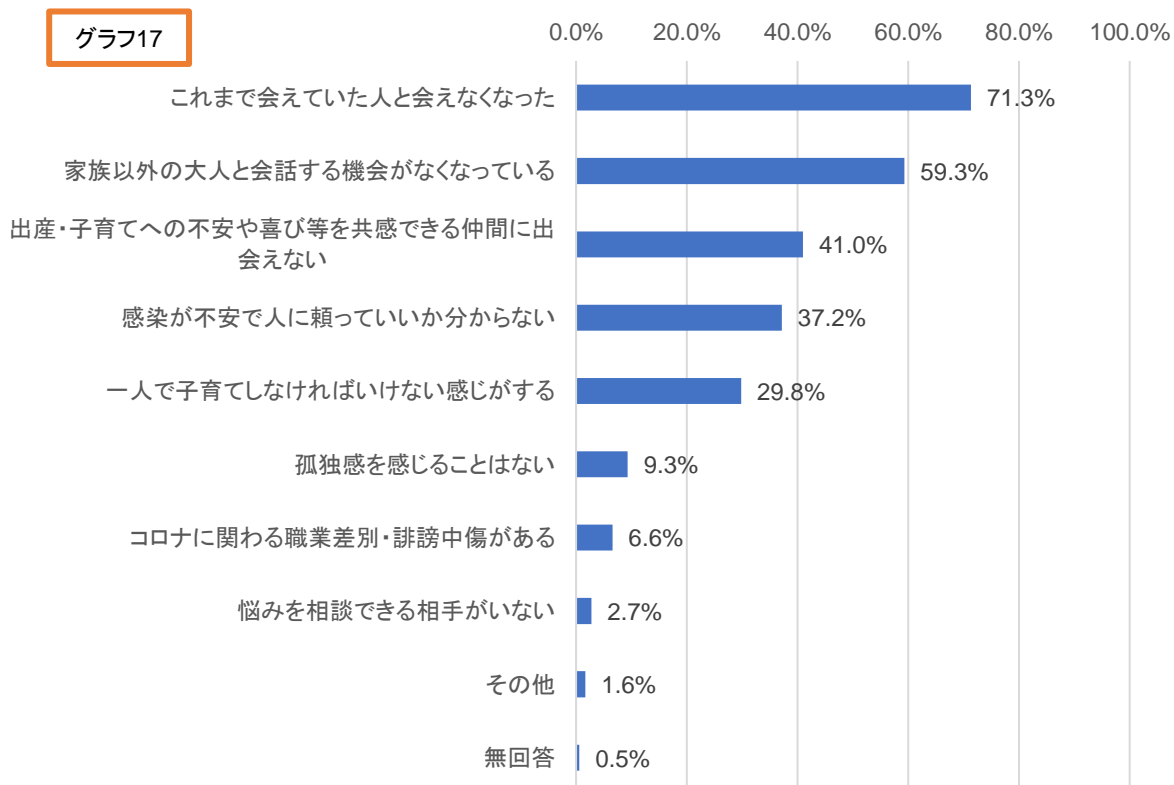


問16 コロナ禍の妊娠、子育てでどんなことに不安を感じますか？（複数回答）



「自分や家族の健康維持」が62.6%、全体の中でも群を抜いて多く、コロナ感染の影響そのものに不安を感じている者が半数以上いることがわかった。「外出することを非難されないか」59.0%もまた、非難される不安を感じながらの外出、或いは家で自粛している状況は精神的健康状態への影響は大きいと予測される。一方「仕事を続けられるか」や「収入の維持」を不安に感じる者は少なかった。その他の意見として、「外出の機会が減ることやマスク生活による子どもの成長への影響への懸念」との意見がみられた。

問17 コロナ禍の妊娠、子育てでどんなことに孤独感を感じますか？（複数回答）

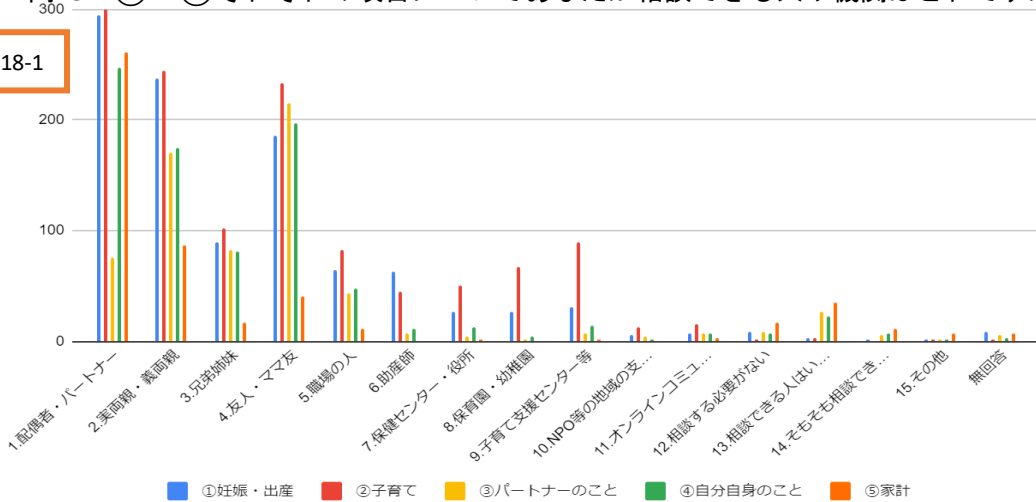


70%が「これまで会えていた人と会えなくなった」こと、「家族以外の大人と会話する機会が無くなっている」という部分で孤独感を感じている。問34の自由記載から「子どもの成長を親や兄妹、友達に見せることができない。」などの声も届いている。これらは問15の困り事「相談をためらった」の回答が30%強あることからわかるように、相談したいことを一人で抱え込む現象に繋がっていると考えられる。更に「ひとりで子育てをしなければならぬ責任感にいつも押しつぶされそうです。」との記載もあり、周囲との繋がりがなく孤立した状態での子育てで切迫している様子がうかがえる。

4 相談状況

問18 ①～⑤それぞれの項目についてあなたが相談できる人や機関はどれですか？

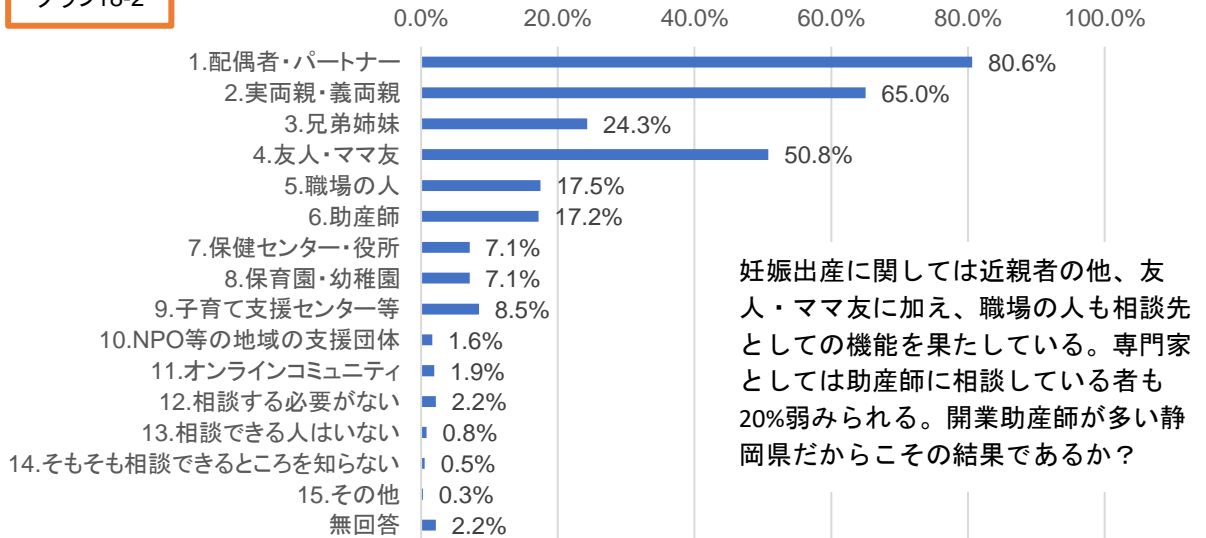
グラフ18-1



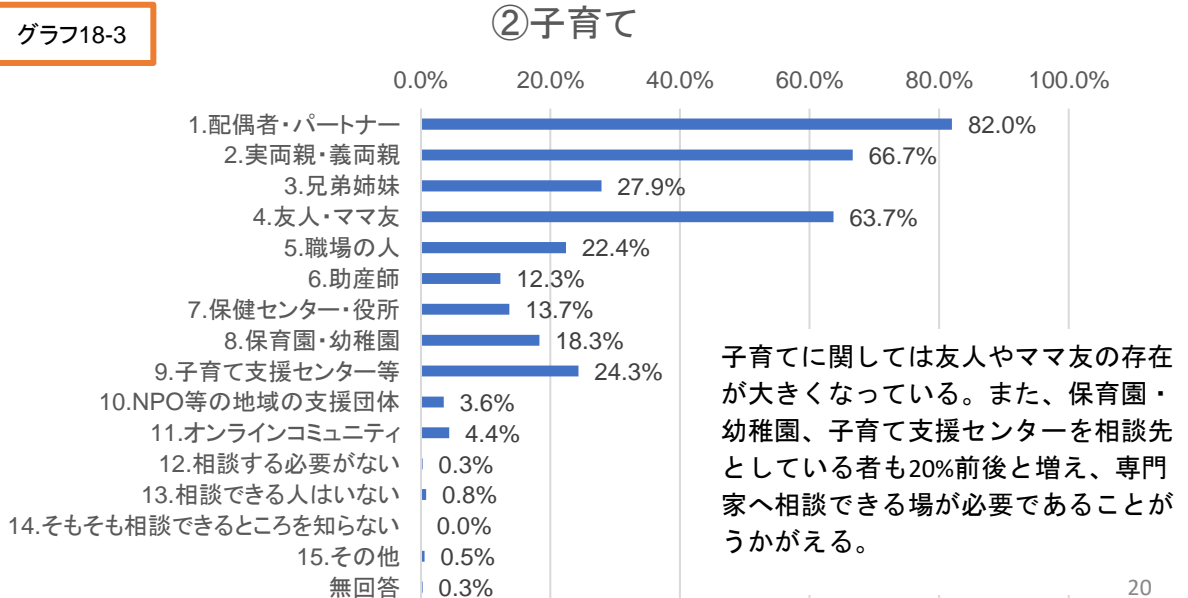
全体としては、相談先として「配偶者・パートナー」「実両親・義両親」「友人・ママ友」が多いことが分かった。「①妊娠・出産」「②子育て」については、相談できる相手がいる人が多かった。「家計」については相談先を知らない、相談出来る人はいない、が多かった。

①妊娠・出産

グラフ18-2

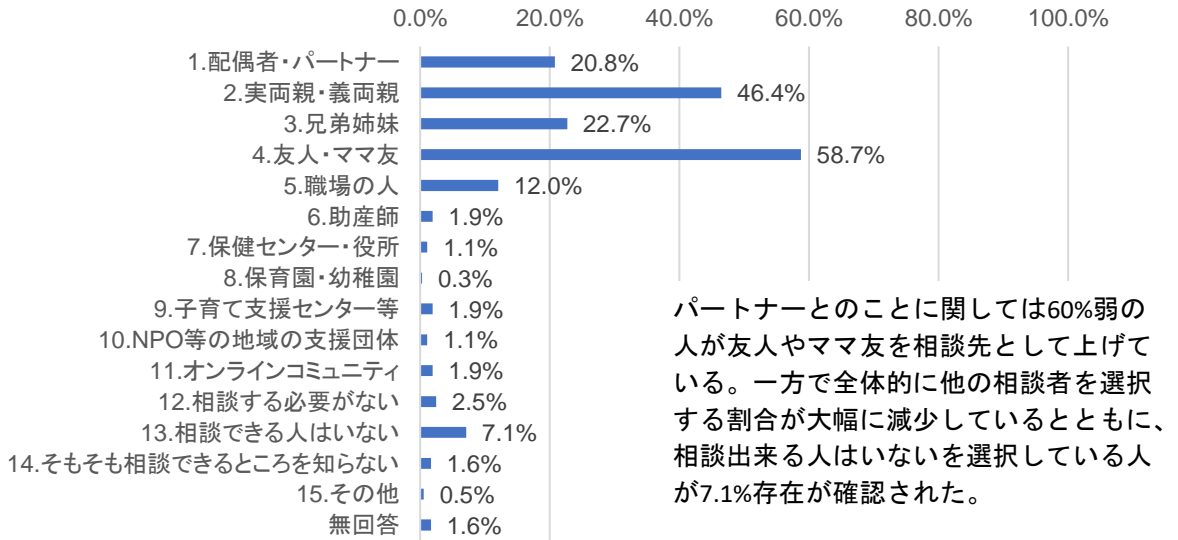


グラフ18-3



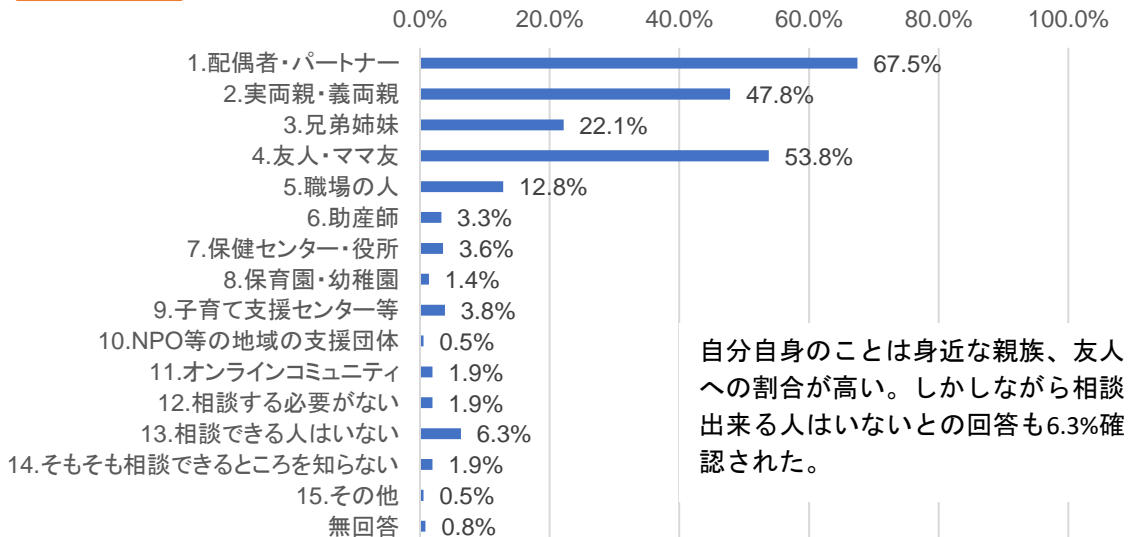
グラフ18-4

③パートナーのこと



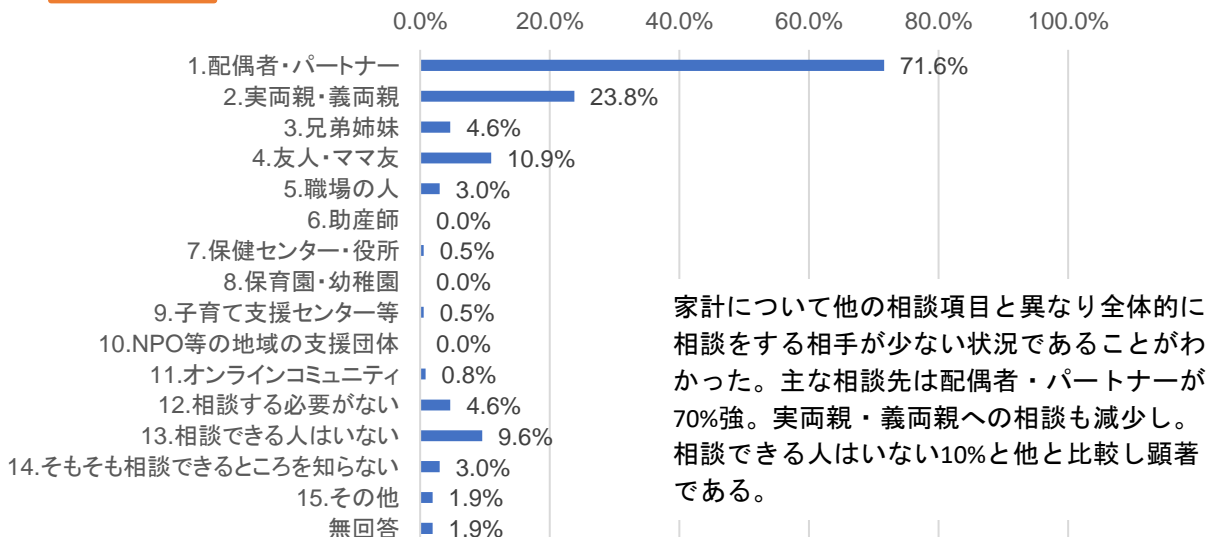
グラフ18-5

④自分自身のこと



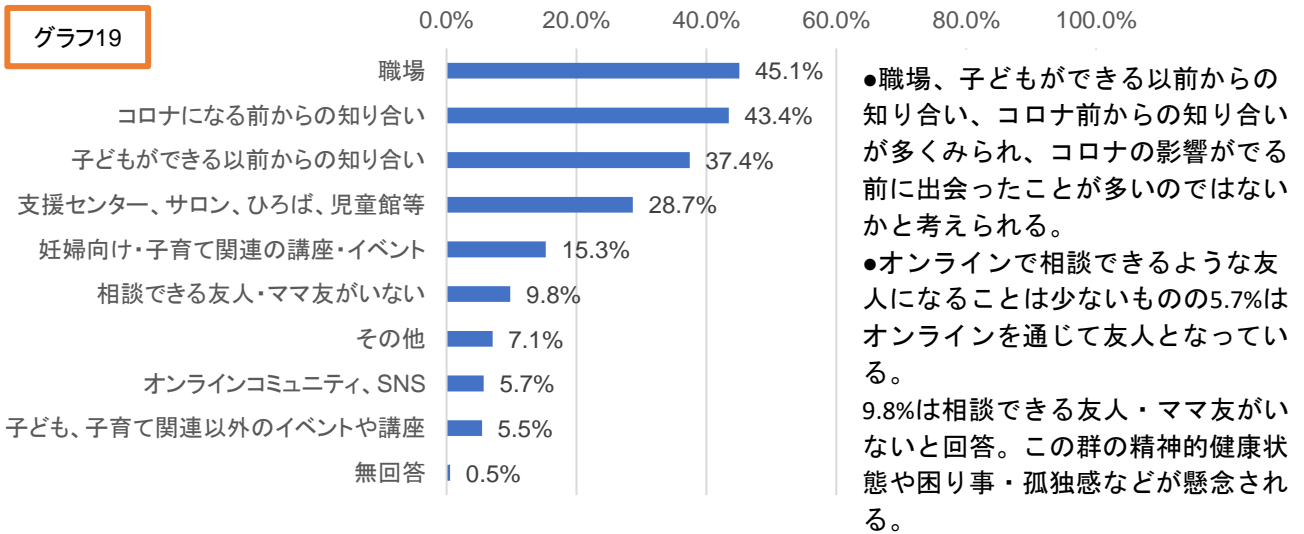
グラフ18-6

⑤家計



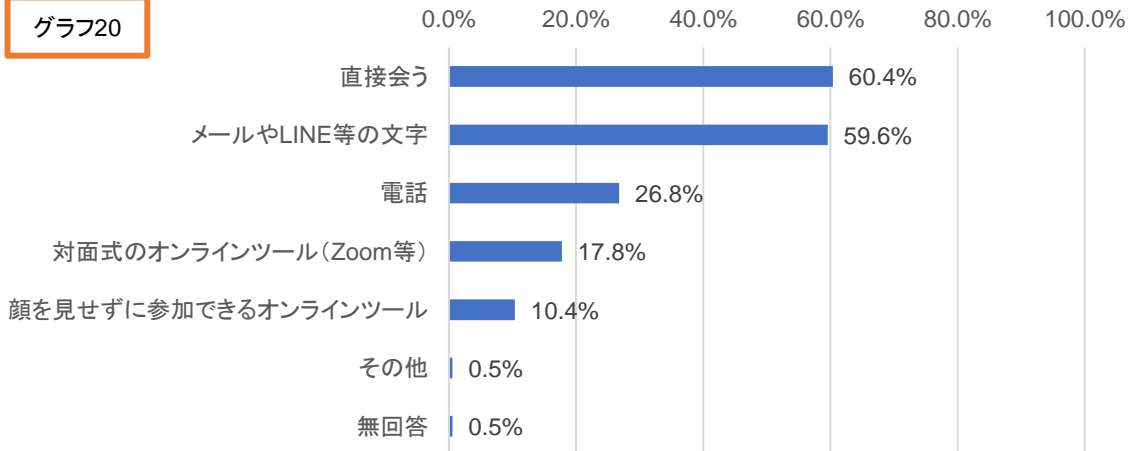
問19 コロナ禍で相談できる友人・ママ友とはどこで知り合いましたか？（複数回答）

グラフ19



問20 コロナ禍で妊娠・出産・子育てに関する現在の相談はどのような形でしたいですか？（複数回答）

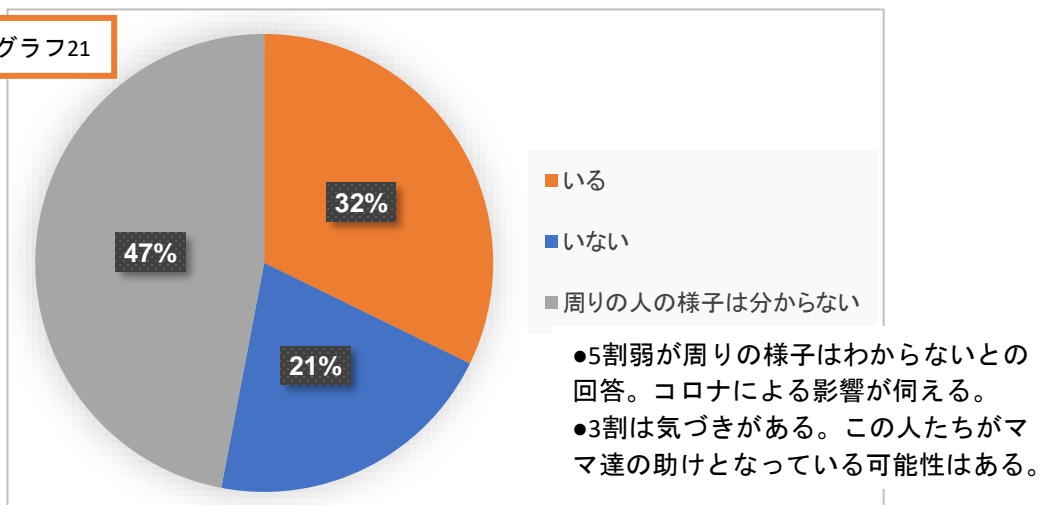
グラフ20



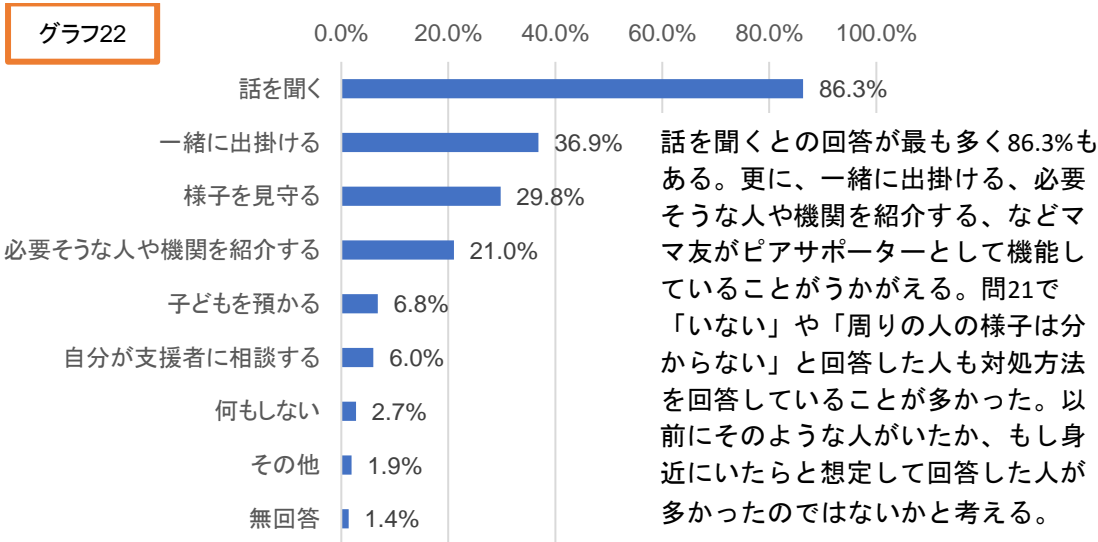
5 ピアの可能性について

問21 ママ友やあなたの周りのママで子育てに行き詰っていると感じた人はいますか？

グラフ21



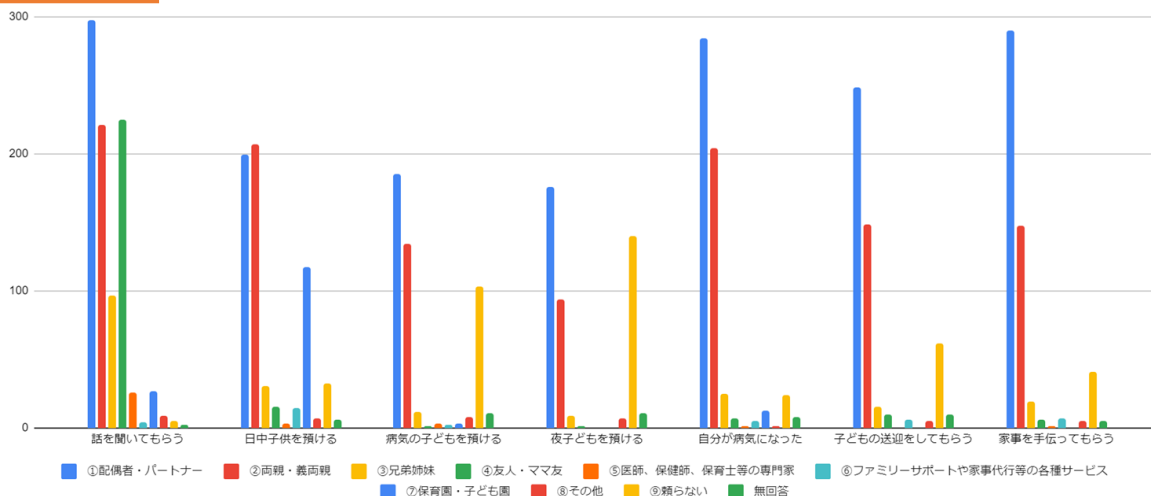
問22.ママ友が子育てに行き詰っているなと感じたとき、どのように対処していますか？（複数回答）



6 頼り先について

問23 あなたは普段以下のような時、誰、どこに頼りますか？

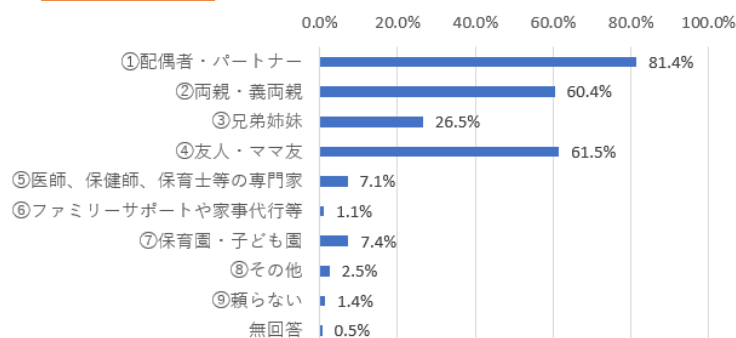
グラフ23-1



頼り先で多かったのは相談先同様「配偶者・パートナー」「実両親・義両親」が多かった。「話を聞いてもらう」以外「友人・ママ友」は少なかった。また、各項目においても「頼らない」との回答が多かった。問18の相談できる先との違いがある。全体的に頼り先は身内であることが多く、無回答も一定数あることからその他の選択肢はあっても頼らない、或いは頼れない状況の者がいることが伺える。

グラフ23-2

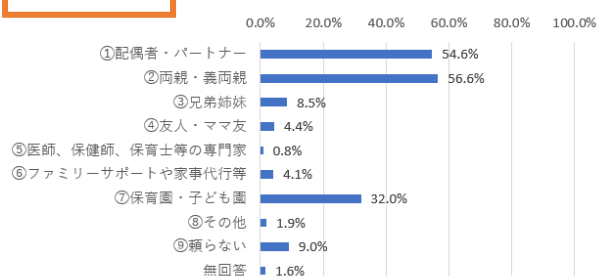
話を聞いてもらう



話を聞いてもらう相手としては夫が最も多く81.1%。次いでママ友が61.5%、兄弟姉妹と高かった。数は少ないが、ファミリーサポートや家事代行などアウトリーチ型のサポーターも頼り先として回答している者がいることが確認される。

グラフ23-3

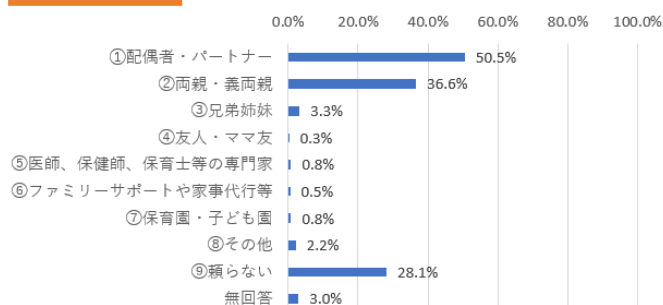
日中子供を預ける



僅かながら配偶者よりも両親・義両親が上回っているが、全体的に預ける人は5割強にとどまっている。また保育・子ども園などの専門機関の利用率も3割程度に留まっている。

グラフ23-4

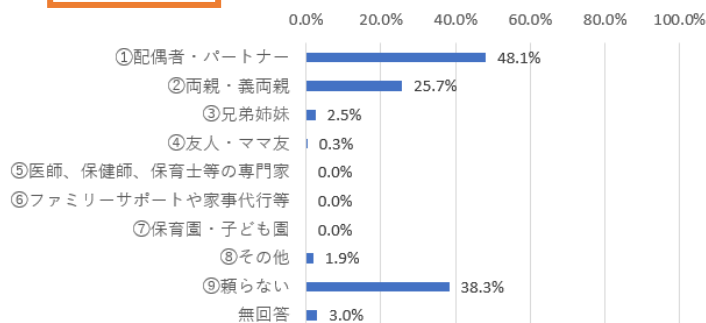
病気の子どもを預ける



病気の子どもの預け先として頼ることができるのは主に夫、両親・義両親であるが、夫であっても5割に留まっていることがわかった。また、頼らない選択をする者が28.1%と増えている。

グラフ23-5

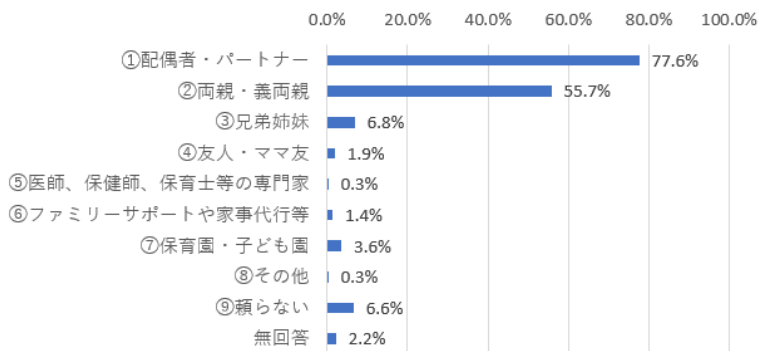
夜子どもを預ける



夜子どもを預けるでは更に頼る割合が減少している。病気の子どもを預けると比較すると両親・義両親の場合であっても9.9ポイントの減少がみられる。一方頼らない群は病気の子どもを預ける際より10.2ポイント増加している。夜は子どもを預けにくい状況であることが分かる。

グラフ23-6

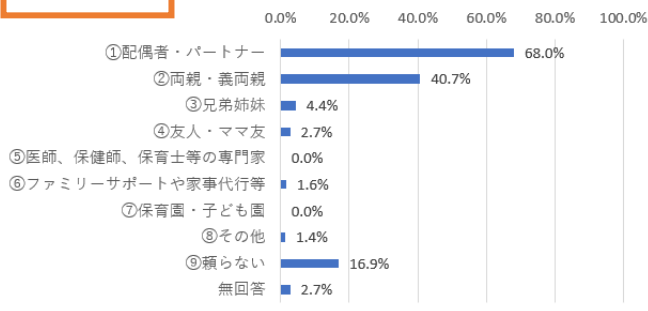
自分が病気になった



自分が病気になった時は頼る率が上がる。どこにも頼らない群は6.6%と他の項目と比較し2番目に低かった。頼らざるを得ない状況ということで両親・義両親への頼る率も話を聞いてもらう、日中子どもを預けるに次いで高く55.7%だった。

グラフ23-7

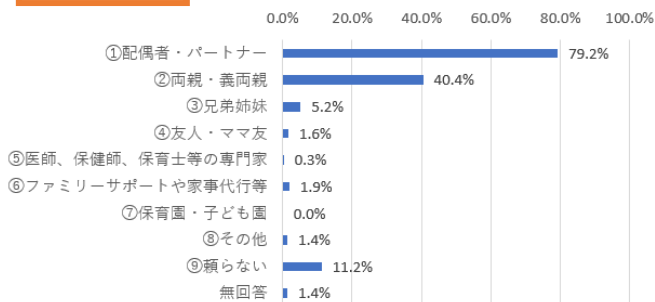
子どもの送迎をしてもらう



子どもの送迎は頼らない群も16.2%いるが、ママ友2.7%やファミリーサポート1.6%なども頼る者がいる。

グラフ23-8

家事を手伝ってもらう

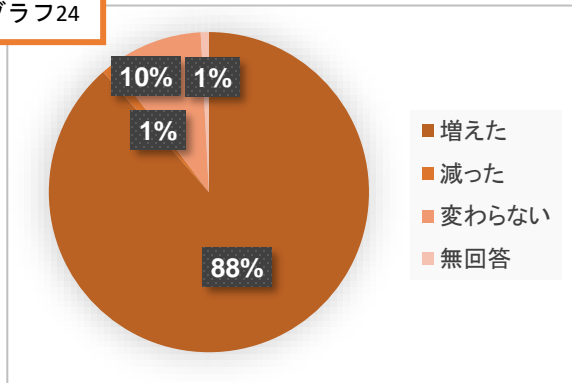


家事では配偶者・パートナーを頼るものが8割弱いる。また両親・義両親は4割いる。にも拘わらず1割は頼らないと回答しておりワンオペ状態にあることが伺える。家事代行等の利用も1.9%と低くサービス利用が進んでいない様子が見えてくる。

7 外出状況について

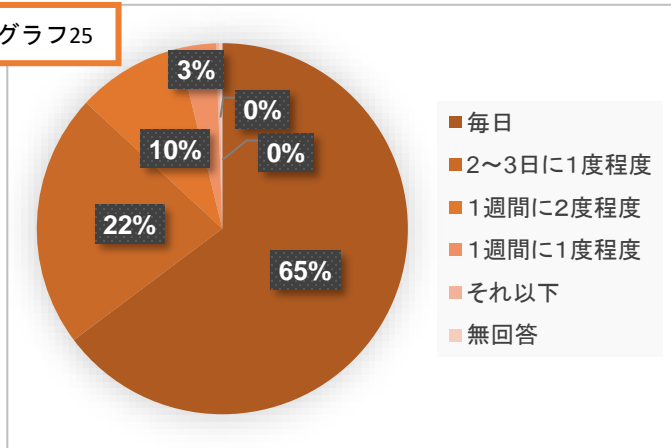
問24 コロナ前後で自宅で過ごす時間は増えましたか？

グラフ24



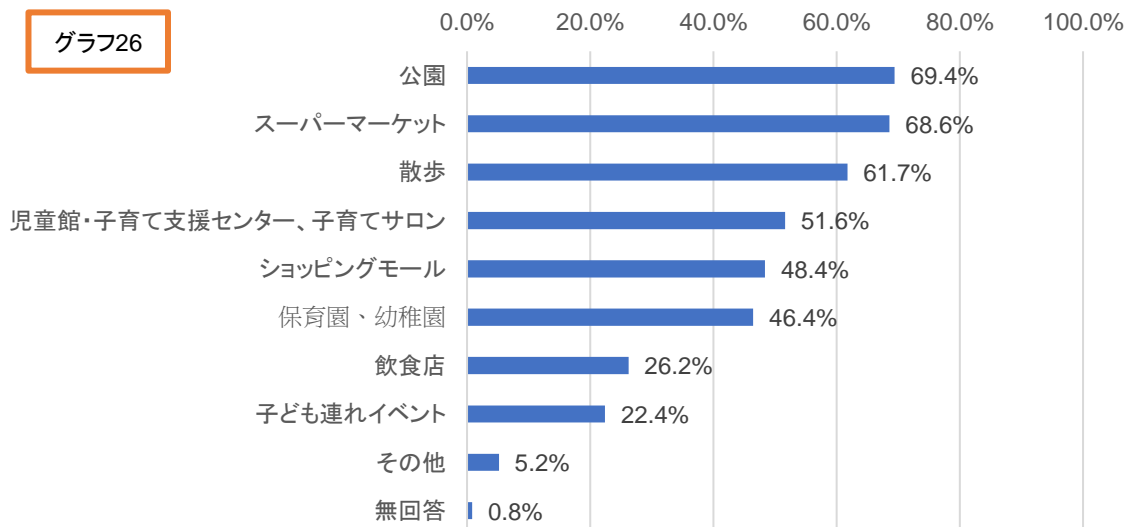
問25 仕事や買い物、散歩等を含めて現在の外出する頻度はどのくらいですか？

グラフ25



問26 子どもと外出する先はどこですか？

グラフ26

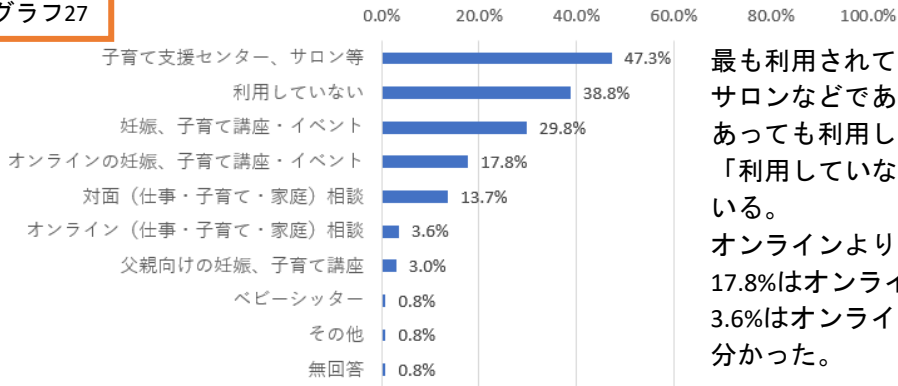


9割弱が自宅で過ごす時間が増えていることが分かった。しかしながら6割程度の者は毎日外出している。3割以上の者が2~3日に一度以下の外出に留まっている。外出頻度が少ない者は産後直後か？外出先としては公園・スーパーマーケット・散歩など気分転換や買い物など日常生活に必要最低限の外出にとどめている。飲食店や子ども連れイベントなどは2割程度と低くなっている。その他に庭・実家などが上がっていたことより家族以外との接触をしない形をとっている者もいることが予測される。

8 支援の実状

問27 コロナ禍で受けたサービスやサポートはなんですか？（複数回答）

グラフ27



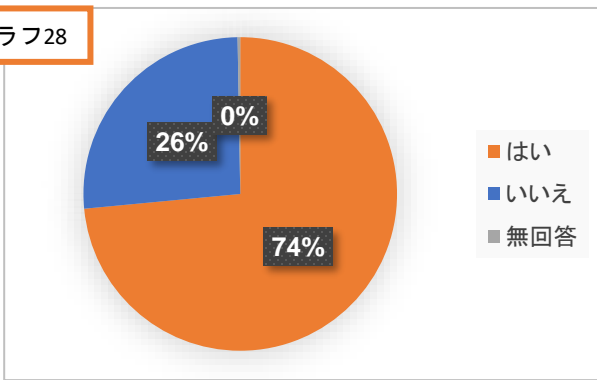
最も利用されていたのは子育て支援センター、サロンなどであった。利用人数や時間の制限があっても利用していた者が5割弱いた事が分かる。「利用していない」が2番目に多い結果になっている。

オンラインより対面の方が受けた人が多い。17.8%はオンラインの講座・イベントに、また3.6%はオンラインの相談を利用していることが分かった。

9 支援ニーズについて

問28 子育てについて学んだ学生の存在は子育ての助けになると感じますか？

グラフ28

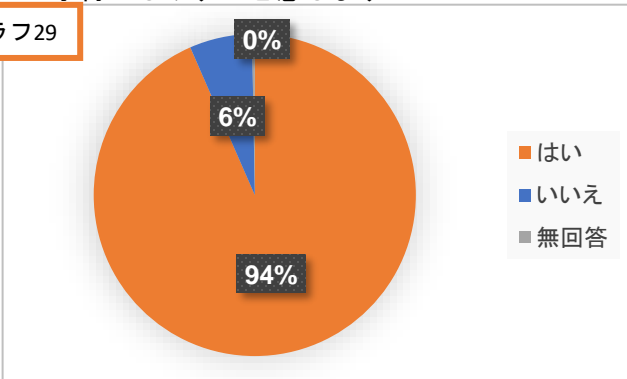


73.5%が子育てについて学んだ学生の存在が子育ての助けになると回答している。

学生に子育ての理解とサポートを促進するアプローチが子育ての負担軽減に繋がる可能性がある。

問29 子育てを理解して、声をかけたり手を貸してくれたりする人が町中にいると子育てしやすいと感じますか？

グラフ29

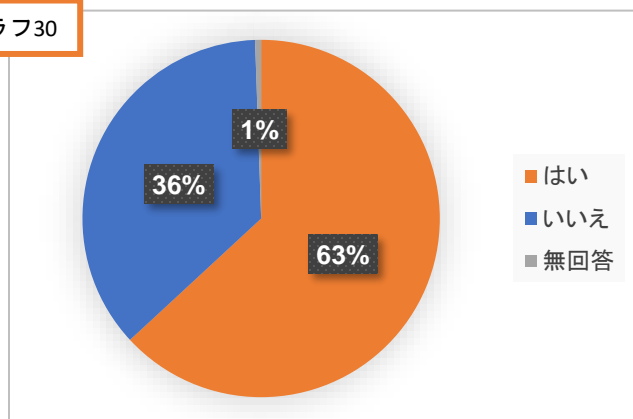


93.4%が子育てを理解して声^④かけたり手を貸してくれる人が町中にいると子育てしやすいと感じると回答。

子育ての理解者及びサポーターの人口を増やすことで子育ての負担軽減に繋がる可能性がある。

問30 オンラインでもつながって、相談もできる地域限定の子育てコミュニティがあったら利用したいと思いますか？

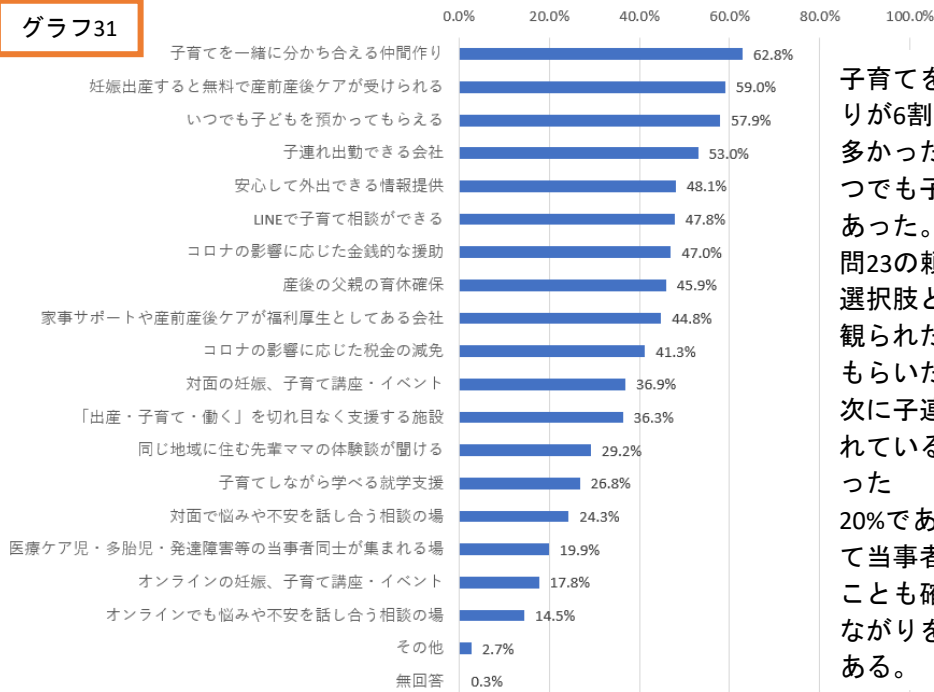
グラフ30



63.1%がオンラインでのコミュニティを利用したいと回答。時や場所を選ばなくても良いことが利用しやすさとして捉えられているか。36.3%はいいえと回答しているため、選択肢があると良いと考える。

問31 どのようなサービス、サポートがあったらよいと思いますか？（複数回答）

グラフ31



子育てを一緒に分かち合える仲間づくりが6割を超えて求められていた。次に多かったのが無料の産前産後ケア、いつでも子どもを預かってもらえる、であった。

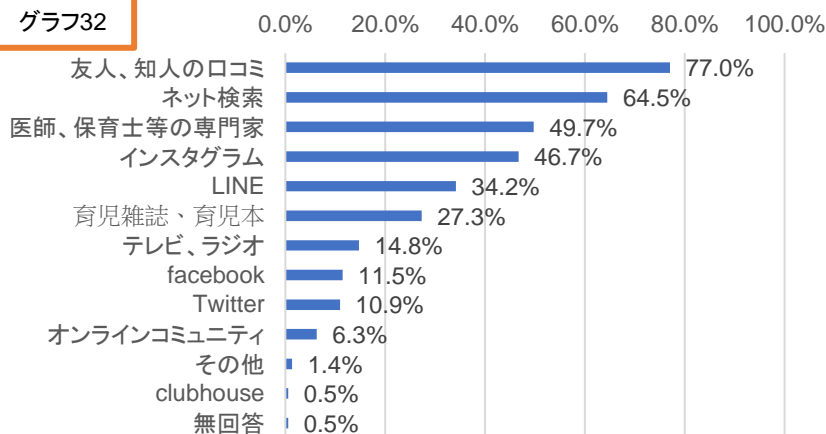
問23の頼り先では子どもを預ける際の選択肢として頼らないとの回答も多く観られたが、一方でいつでも預かってもらいたいという希望がある。

次に子連れで出勤できる会社が求められている。コロナで働き方の変化もあった

20%であるがスペシャルニーズの子育て当事者たちの集まれる場を求めていることも確認できた。コロナ禍で特にながりを得にくい状況にある可能性がある。

問32 妊娠・出産、子育てに関する情報はどこから得たいですか？（複数回答）

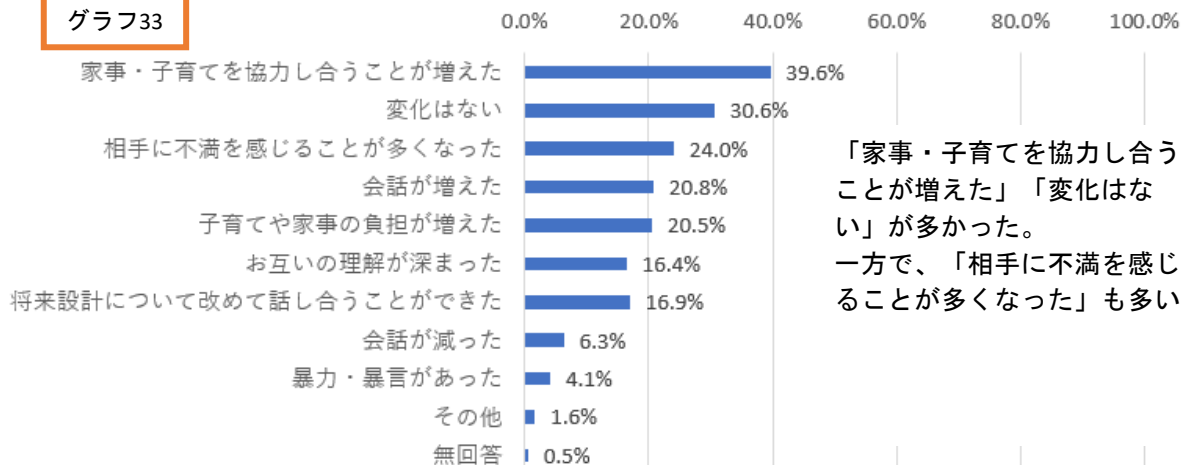
グラフ32



10 パートナーとの関係について

問33 コロナ禍でパートナーとの関係にどのような変化がありましたか？（複数回答）

グラフ33



「家事・子育てを協力し合うことが増えた」「変化はない」が多かった。一方で、「相手に不満を感じるようになった」も多い。

11 コロナ禍の育児について

問34 コロナウイルスの影響が出て一年以上経過しましたが、この間どんなことを感じながら過ごしていましたか？相談したいことはありますか？自由に記入して下さい。（自由記述）

【外出できないストレス】

- 子どもたちの出かける範囲がすくない
 - 子どもを連れて行く場所がない
 - 子どもを安心して外出させることが難しい
 - 気楽に外出ができないことは苦痛です。行ける場所も制限されて、ストレスが感じます。
 - 外出出来ないストレスがすごい
 - 早く旅行に行きたい
 - 自宅だけで過ごすのは限界なので、こんな時こそ、遊びに行ける場所が欲しい。
 - なかなか外出できなくてストレスを感じた
 - 自ら外に出ていこうとする人はいいが、そうでない人は、家に閉じこもって子どもと二人きりだと息が詰まるだろうな、と想像している。そういう人にこそ情報が届くといいのに、と思う。
 - 早く外に出ていきたいと考えていた
 - 早く自由に外出できる世の中になってほしいとずっと願っている
 - 外出を控えているので運動不足になる。最低限の外出なのでストレス発散が出来ず、蕁麻疹等がでてしまい困る
 - 人と会うことをためらった。市境の山に住んでいるが実際の距離ではなく居住地の市ごとの区切りにされていることが多くとても不便に感じる。
 - せっかくの育休なのにどこにもいけない。むしろ、出かけられないのに、子供も預けられない。負担が増えてイライラする時間が増えた。
 - 下の子が産まれたばかりというのもありなかなか外へ出られず家の中にもりっぱなしで、上の子のストレスも溜まっていく一方で私自身のストレスも溜まり主人やこどもに当たってしまう事が増えた。イヤイヤ期真っ盛りの上の子への接し方など相談したい
 - 子どもの行きたい所に気軽に行けなくなって、子どもに我慢させてかわいそうだった
 - 子ども3人を育てています。上2人は保育園に通っています。1番下が新生児のとき、お兄ちゃんの1人が発熱したので、保育園を休ませました。すると、園からお兄ちゃんが発熱なら真ん中の子も休ませてほしいと連絡がありました。3時間おきに授乳する新生児、調子が悪くて機嫌の悪い5歳男子、熱もないし元気な2歳男子をひとつ屋根の下で見るのはとても厳しかったです。
- あと、休日はよく家族で公園へいくのですが、天気の良い休日にどうしようかなといつも困ります。ずっと家にこもっていると大人も子どもも参ってしまうので、雨でも遊べる施設があるといいなと思います。
- 結婚して友達のいない場所に来て、そのままコロナ禍で妊娠出産したので、全く友達がいません。夫とも婚活で出会ってすぐに結婚したのでまだ距離を感じます。気軽に相談できる親や友達は距離があるので主にLINEなどで話をしています。車が運転できないし、自分の収入や小遣いも少ないので1人では外に出かけられず、ストレスは溜まっていると思います。
 - 感染に気をつけながら、不安に思いながら過ごしていた。出かけられる場所が限られてストレスが溜まった。
 - 幼稚園が休みになったり、コロナ感染が気になりおもうようにでかけられなかったり、毎日どのように過ごしたらいいのかを悩んでいました。そして、生活が前のように戻ることを楽しみに過ごしていますが、日々子どもたちとマンツーマンで精神的、体力的に疲れきってしまってます。コンディションを整えるにはどうしたらいいのかと毎日思っています。

【孤独感】

- コロナ禍の妊娠出産で非難されることもあり、出産時も入院から退院まで面会禁止で孤独を感じた。2人目はママ友も出来ず、同じくらいの子と合わせてあげることも出来ていない。支援センターに行きたくてもコロナ禍で行きづらい。とにかくオンラインでもいいからママ友を作ったりしたい。
- ますます子育てを孤独にする人が増えるだろうなと実感した
- 子供と一緒にいても、どこか孤独を感じる事が増えた。
- 初めての子育てプラスコロナ禍で孤独感を感じる事が多いが、経済面での不安や外出も難しく大人がストレスを発散するのも難しい。希望をもちたいが日々過ごすのが精一杯で将来の希望がもてず閉塞的な気持ち。

【休園・休校による影響】

- 保育園・学童から自粛要請があり、できれば子供をみたい。しかし、仕事が忙しくてそれを上司に言えない。要請ではなく、決まりなら休まざる得ないのに、弱者に決めることを委ねるのが困った。
- 子どもを預けて仕事できないのが困る。
- 休園が本当に困る

【経済的な不安】

- 県外には出ないようにしていたので旅行も全て県内で子供の思い出作りがあっという間に大きくなってしまい、まだ小さい子が大人がみんなマスクをしているので表情の読み取りが難しく影響は出ないかなと心配になります。
 - もう1人子供が欲しいがコロナ禍で金銭的に諦めざるをえない
 - 外出していないのに、支出が多くなった。
 - 子育て支援や経済対策など、いろいろな支援が国や県、市から援助があるようにみえますが、実際は非課税世帯や1人親にしか支援がなく、コロナ禍で様々な支出が増えているのはその他の家庭も同じだと思っています。
- 子育て世帯を分断して考えている時点で、全ての子供に対して支援が受けられないのは不平等に感じています。

支援が受けられないから、登園自粛を要請されても支出が増えている分働かなくては暮らしていけないので、自粛する事も出来ません。

そんな中自粛出来ない保護者への保育士の心無い言葉一つ一つが苦しいです。

【子どもへの影響】

- 子どものストレス度合の心配。生活費の心配。
- 赤ちゃんが、周囲の大人の表情が見えないまま過ごしている。成長に影響はないかな？
- 子どものお友達と遊ぶ機会が減った。
- 子ども同士で関わり合う場がほぼなく(イベントの中止や人数制限により競争率が高く参加できないなど)、さみしく感じる。また、その他にもあらゆる体験の場が制限されているため、成長に影響があるのではないかと不安に思う。
- コロナ禍のため、息子に色々な経験をさせてあげられない、連れて行けない
- いつまでこんなことが続くのか、これからどんな社会になっていくのかを考えて憂鬱な気分になることが多い。こどもたちへの影響がすごく心配。1日でも早くマスクを外して元の生活に戻してあげたい。
- もっと自由に子供を遊ばせてあげたい。マスクを取ってあげたい
- 子どもを遠出させてあげられなくてかわいそう。
- 子どもがどうしたら楽しめるのか、感染対策をしながら出かけられる場所があるのか、土日祝日は家でできる遊びを考えることができた。子どもがテーマパークに行きたいとの訴えがあったがそれに沿うことが出来なくて申し訳ない気持ちになった。子どもは今の状況を受け入れられず外で遊ぶ機会が減り、発達、発育に少し不安がある。

【コロナ感染に関する不安・注意】

- 感染の不安の中、小さい子どもたちをいかに楽しませるか、主人や私がかかってしまった時にどうするか。元の生活に戻れるか。
- 早く感染予防を気にすることなく活動したい
- どこでコロナに感染するか分からないから、常に手指消毒や除菌を意識して過ごした。
- 子どもへの感染
- コロナウイルスの子どもへの感染について信頼出来る情報が少なく、ストレスを感じた。
- 子どもを感染させてはいけないというプレッシャーが強い。スーパーに連れて行っていいのかなど悩む。

【居場所がない】

- 支援センターやサロンの休止によって子どもと一緒に出掛けられる室内の居場所がなくなりました。再開したものの利用回数の制限などもあり、以前よく会っていたお母さん達と会えなくなっていました。連絡先は知っていても誘っていいのか迷ってしまい、結局疎遠になってしまった人もいます。気候が良い時には公園など居場所はありますが、そこで親しい関係になることは難しく、ただ子どもを遊ばせるだけでした。コロナの感染など漠然とした不安がずっと付きまとしてモヤモヤした気持ちが強い1年半でした。
- 児童館の制限がきびしくて困る

【祖父母親戚に会えない】

- 遠方に祖母が一人で住んでいて、孤独を感じていると電話で話しているが、会いに行けない。また、コロナ禍で実父が亡くなり、納骨に行けていないのがずっと気掛かり。第一子に比べて第二子はおでかけも出来ず、狭い世界で生きているのが申し訳ないと感じる。相談するところはないし、してもしようがないことなのだろうと思う。
- 子どもの成長を祖母に見せたい
- 子どもの成長を親や兄妹、友達に見せることができない。子どものお出掛けが、感染が心配でうしろめたい。
- コロナになり、老人ホームに入っている祖母、遠方に住む旦那の両親などに会えなくなりました。そのため、赤ちゃんだった我が子の成長を直接見せることができなく、長期休み前は残念な気持ちになります。

【身近な人との意識の違い】

- コロナウイルスが蔓延する前までは、子育て支援センターやこども館など室内の施設を多く利用していましたが、感染拡大が進むに連れて人数制限が設けられたり休館になってしまったりして遊びに行く機会がどんどん少なくなってしまいました。仕方がないので屋外の公園で遊んでいたのですが、緊急事態宣言の発令に伴い遊具の周りには規制線が張られて自由に遊べなかったり、仲の良い友達と一緒に遊べば密な状態が生まれてしまうのでそれも気になるようになり...ついには一歩も外に出ない生活を送るようになってしまいました。息子は今2歳でわんぱくな遊び盛り。思いっきり体を動かして遊びたい盛りなのにいろいろな活動が制限されてしまつてとても残念に思います。また、ママ友によってもコロナに対する考え方が違うので、意見が合わないことでストレスに感じてしまうことも多くあり悩んでいます。
 - コロナで夫の残業がなくなり在宅勤務が増えた。ちょうど私の出産と重なり、収入は減ったが家事などでは助かっている。出産に関しても、病院が面会禁止で寂しいと言う人もいるが、そもそも自分は転入者で友達も少ないので、かえって孤独を感じることもなく良かった。
 - ママ友と集まる、など家族以外の人とあまり会えなくなり寂しいですが、ちょうど仕事復帰し職場の人との関わりがあるので他人と話す機会が増え孤独感を感じずに過ごせたと思います。育休中でしたら出かけられるところもないし、友人と集まるのもできないので大変だと思います。
 - 感染予防に関しての夫婦で意識が違うなかで、子供の感染を守らなくてはならないのが、かなりストレスになった。
- テレビで、感染予防もせずに出歩いている人を見ると、腹立たしくてしょうがなかった。

【他者との認識の違い】

- 各個人のさまざまなことのリテラシー格差があると感じた。
- 感染対策の感覚が人それぞれで難しい。
- コロナに対する考えが周囲の人とは違うと感じる時もあり、それで孤独感を感じることもある。
- みんなができる限りの感染対策をして、外出を最小限にすればおさえこめるが、その意識がない人が多くて驚いている。この時期の立ち振舞いで、その人がどんな人か目の当たりにしてがっかりすることも多かった。保育園に預けるのがこわい。
- 対策をして遊びに行っても、ここに行ってきたよー！などと気軽に言えなくなった…。コロナなのに出かけて...などと思われそうで！

【辛さ】

- ひとりで子育てをしなければならない責任感にいつも押しつぶされそうです。でもなんとか毎日生きています。
- 生きづらい
- 必要な子供に関する検診や補助が無く、精神的に辛かった
- 以前の日常生活は、なかなか戻れないから、辛いなーと思っていました。
- コロナ禍で妊娠、コロナ禍で生まれた子供はかわいそうだとかネットで言われていて傷ついたが、息子には窮屈な思いをさせず、のびのびと育て欲しいしできる限り努力したいと思っています
- 子育てで息詰まっていっぱいいっぱいになった際に、近くのこども園で一時保育の受け入れがなくとても辛い思いをしました。初めて区の電話相談ダイヤルにかけたのですが具体的な解決策やアドバイスをもらうことができずに苦しかったです。

【コミュニケーション不足】

- 子育て仲間が欲しいが、コロナ禍であまり密なコミュニケーションが取れないので、作れない。
- 友人にも気軽に会えず、毎日子どもと何して過ごそうか考え、大人とほとんど会話をしてない毎日がとても憂鬱。
- 自分が病気がわかったこともあり、日々健康に関して不安なことが多かったです。気軽にお茶会のようにお話ができる場所があれば気が紛れるのにと感じていました。

【機会喪失】

- コロナがなければ産後もたくさん人に会えて子供を見てもらったり、ママ友と遊んだり支援センターなどのイベントにも参加できたのにな、コロナがなければ育児がもっと楽しかったんだろうなと残念な気持ち。
 - イベントが中止になって寂しい新しいママ友など広がらない
 - 立ち会い出産は絶対にしたかったが出来ずにショックだった。
- が、夫がテレワークが増えたのと出張が無くなったので子育ては不安が少なくなった

【仕事との調整】

- 子供たちをどうコロナから守りながら、仕事が続けるか、またどんな状況になったら、仕事を休んで子供を家庭保育に切り替えるか、そんな事を毎日のように夫と話し合い喧嘩しました。お友達が長期間お休みし、不安がる子供のケアにも、苦戦しました。

【辛さを感じていない】

- なし
- 特にない
- 大きな変化はなし
- 人と毎日会いたいタイプでは無いので、気楽です

【大切さ・有難み】

- 家族の大切さを感じながら過ごしました。
- 普通に生活できるありがたさを改めて感じることができました。

【要望】

- 地域毎に時間を決めたり、市から指示があれば良かったなあって思った

【その他】

- 産婦人科でナースをしています。産後にエジンバラという鬱のチェックシートを書いてもらうのですがコロナになって高得点の人が増えた印象です。里帰りしにくい、親にも周りにも一層頼りにくく引きこもりがちになるのが要因の一つかなあと心配しています。

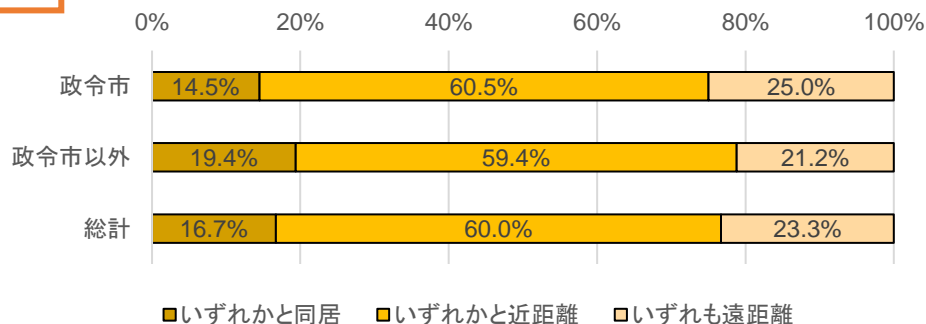
産後一ヶ月健診がおわったら基本的には産科に来なくなるのでその後のフォローが心配です。

Ⅱ 分析結果

1 地域別の特性

政令指定都市である静岡市と浜松市と、それ以外の市町とでの比較を行った。全体的に大きな違いは見られなかったが、祖父母との距離感においては政令指定都市以外で同居率が高い傾向がみられ、政令指定都市では遠距離である傾向がみられた。

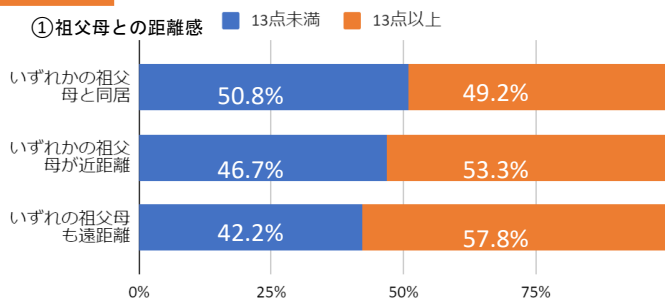
グラフ34



2 属性別の精神的健康状態

①祖父母との距離感②就労状況③相談先の有無④頼り先の有無⑤ママ友の有無⑥パートナーとの関係性⑦サービス利用⑧コロナ禍の妊娠・出産・産後において精神的健康状態の傾向を分析した。

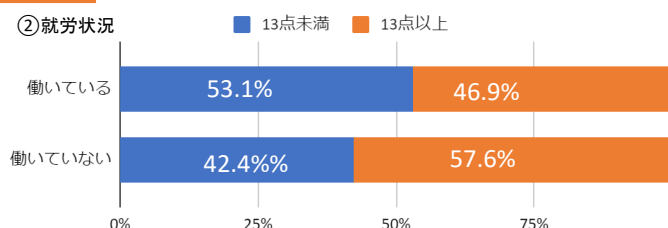
グラフ35



問9祖父母との距離感と問14とのクロス分析を行った。祖父母に会えずサポートを受けることができない遠距離群の精神的健康度の低さを予測していたが、同居群の方が精神的健康度が低い者の割合が多かった。

* 問9において「母方祖父母と同居」「父方祖父母と同居」と回答した者を「いずれかの祖父母と同居」「母方祖父母と近距離」「父方祖父母と近距離」と回答した者を「いずれかの祖父母が近距離」「母方祖父母と遠距離」「父方祖父母と遠距離」と回答した者を「いずれの祖父母も遠距離」の3分類とした。

グラフ36

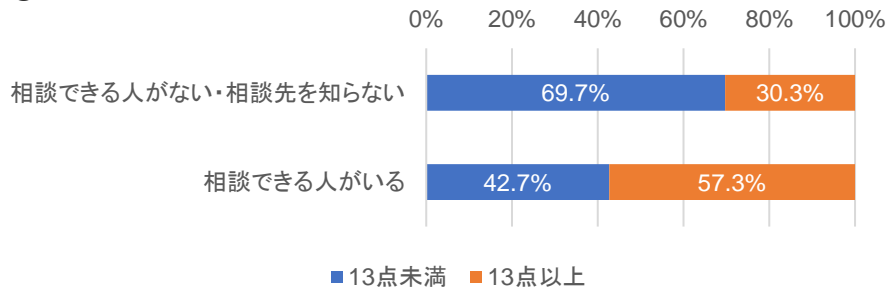


問10就労状況と問14とのクロス分析を行った。働いている者において精神的健康状態が低い者が占める割合が5割を超え、働いていないものと比較して低い状況にある者が多いことが確認された。

* 問10において「フルタイムで働いている」「時短勤務、パートタイマー、アルバイト」と回答した者を「働いている」「産休、育休中」「休職中」「学生」「仕事はしていない」と回答した者を「働いていない」の二分類とした

グラフ37

③相談先の有無

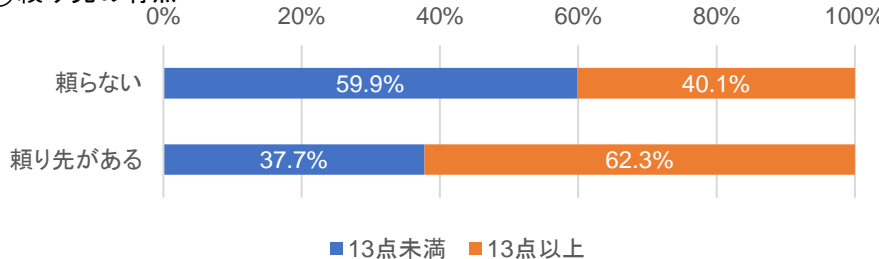


問18相談状況と問14とのクロス分析を行った。相談できる人がいない、相談できる先を知らないと回答した者に精神的健康度の低い傾向が顕著に確認された。

※問18において相談項目のどれか一つでも「相談できる人がいない」「そもそも相談できる先を知らない」にチェックした人を「相談できる人がいない・相談先を知らない」とし、それ以外を「相談出来る人がいる」の二分類とした。

グラフ38

④頼り先の有無

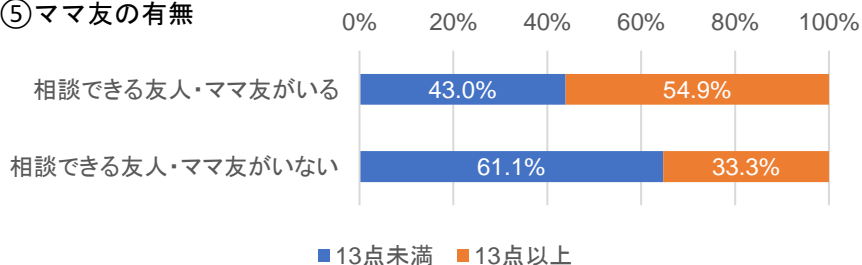


問23頼り先と問14とのクロス分析を行った。頼り先がある者の精神的健康度の高い傾向が確認されたと同時に、頼らないと回答した者に精神的健康度が低い傾向が確認された。

※問23において頼り先の項目のどれか一つでも「頼らない」にチェックをした者を「頼らない」、それ以外の者を「頼り先がある」の二分類とした。

グラフ39

⑤ママ友の有無

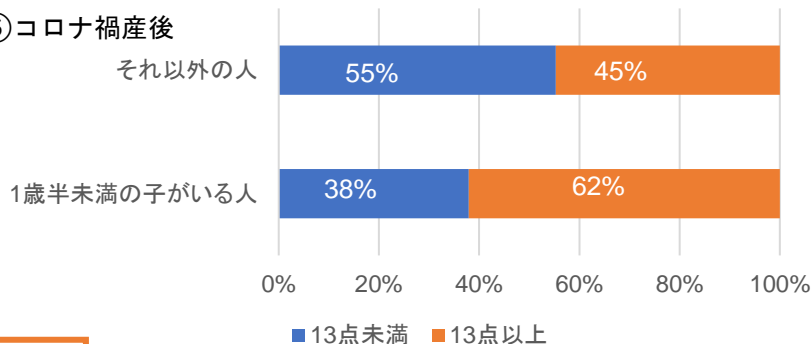


問19のママ友と問14とのクロス分析を行った。相談でいる友人・ママ友がいない者の精神的健康度が低い傾向が確認された。

* 問19において「相談できる友人・ママ友がいない」と回答した者を「相談できる友人・ママ友がいない」とし、それ以外を「相談できる友人・ママ友がいる」の二分類とした。

グラフ40

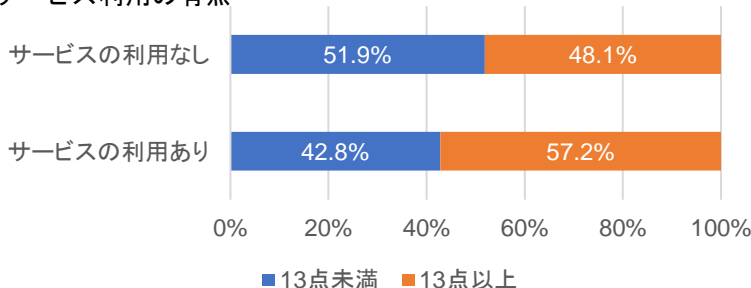
⑥コロナ禍産後



コロナ禍での産後及び子育てスタート期を過ごしてきた1歳6カ月未満児のいる者において精神的健康状態が低い傾向は確認されなかった。

グラフ41

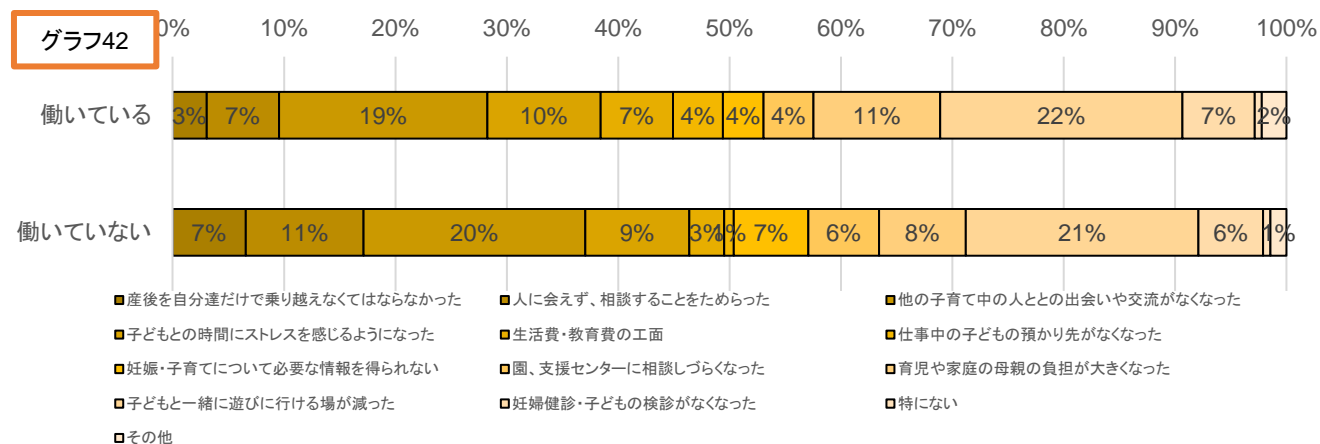
⑦サービス利用の有無



3 就労状況を視点とした分析

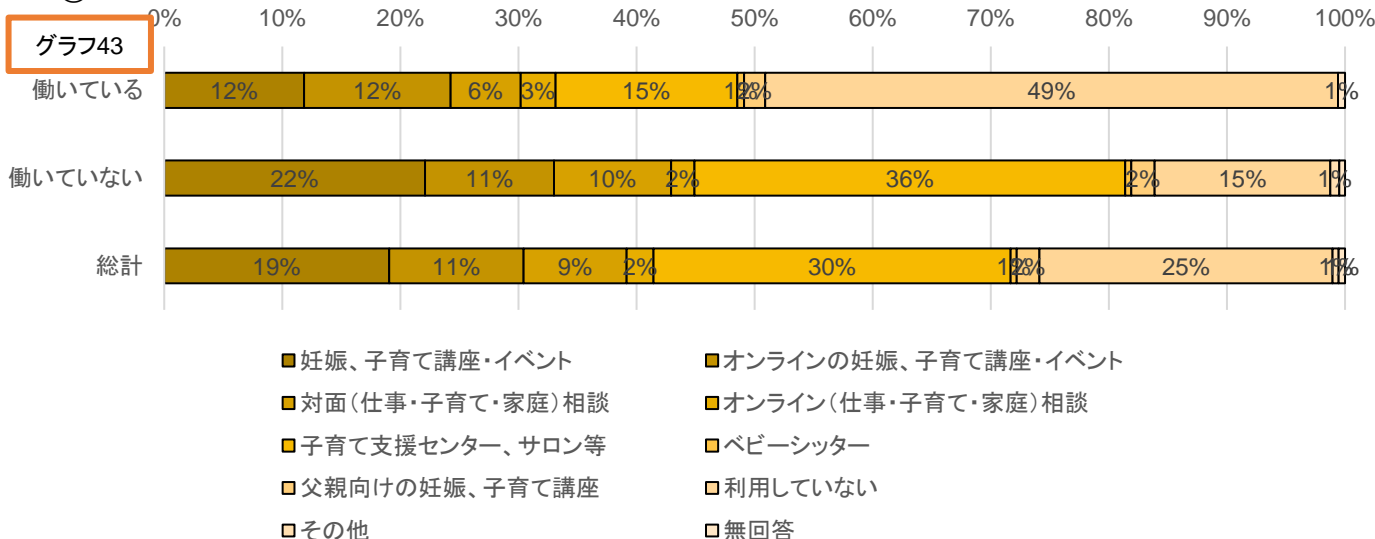
問10にて「フルタイムで働いている」「時短勤務・パートタイマー・アルバイト」と回答した者を「働いている群」、「産休・育休中」「休職中」「仕事はしていない」と回答した者を「働いていない群」と二群に分けてクロス分析を行った。

①就労状況と困り感



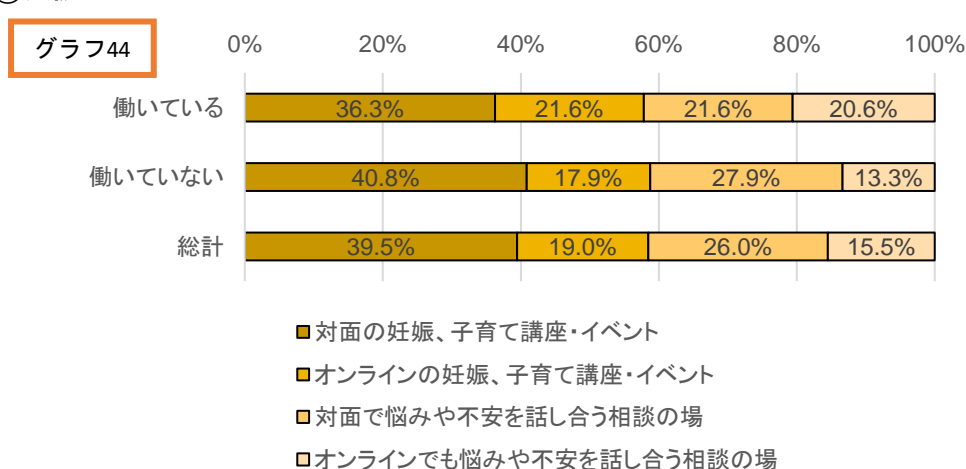
問10と問15によるクロス分析を行った。働いているものと、働いていないものとは大きな違いはみられないものの、働いていないの方が「産後自分達でのりこえなければならなかった」「人に会えず相談することをためらった」との回答率がやや高かった。

②支援の実情



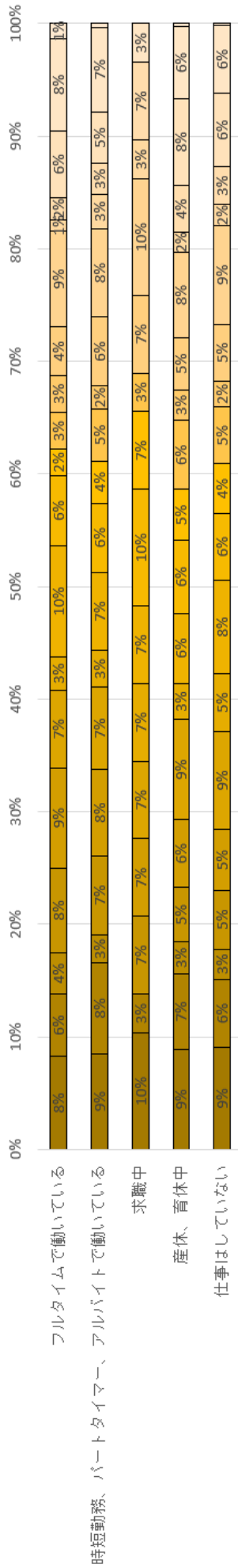
問10と問27によるクロス分析を行った。働いている者の5割弱がいずれのサービス・支援も「利用しなかった」と回答。

③支援ニーズ



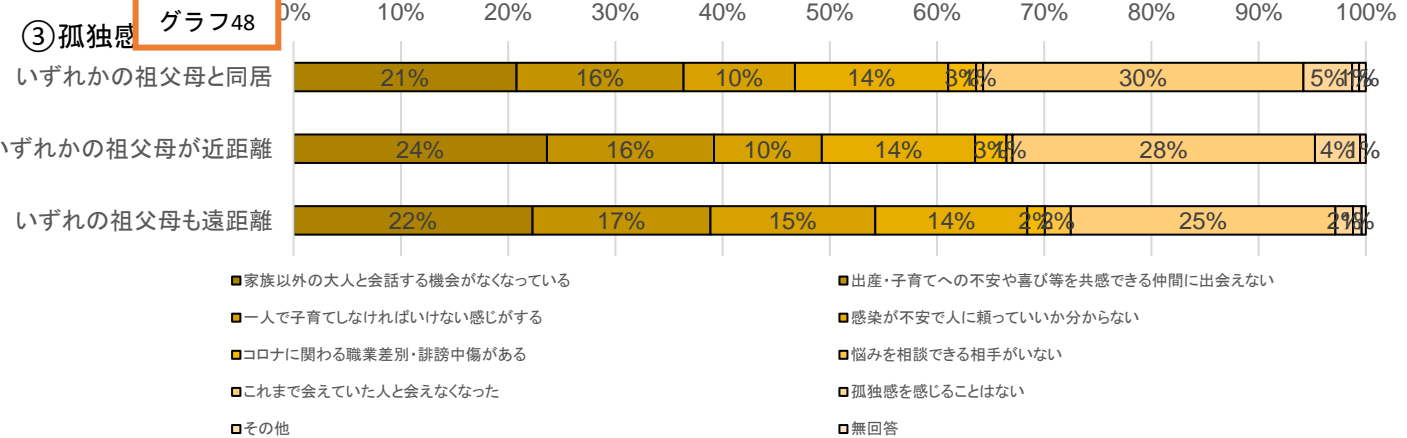
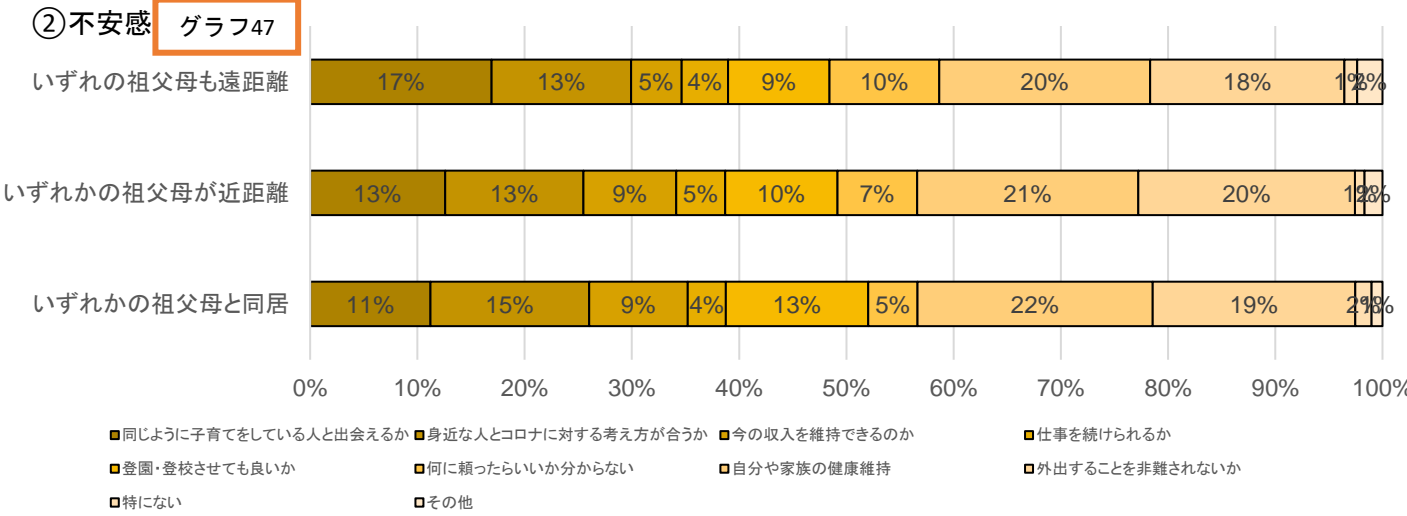
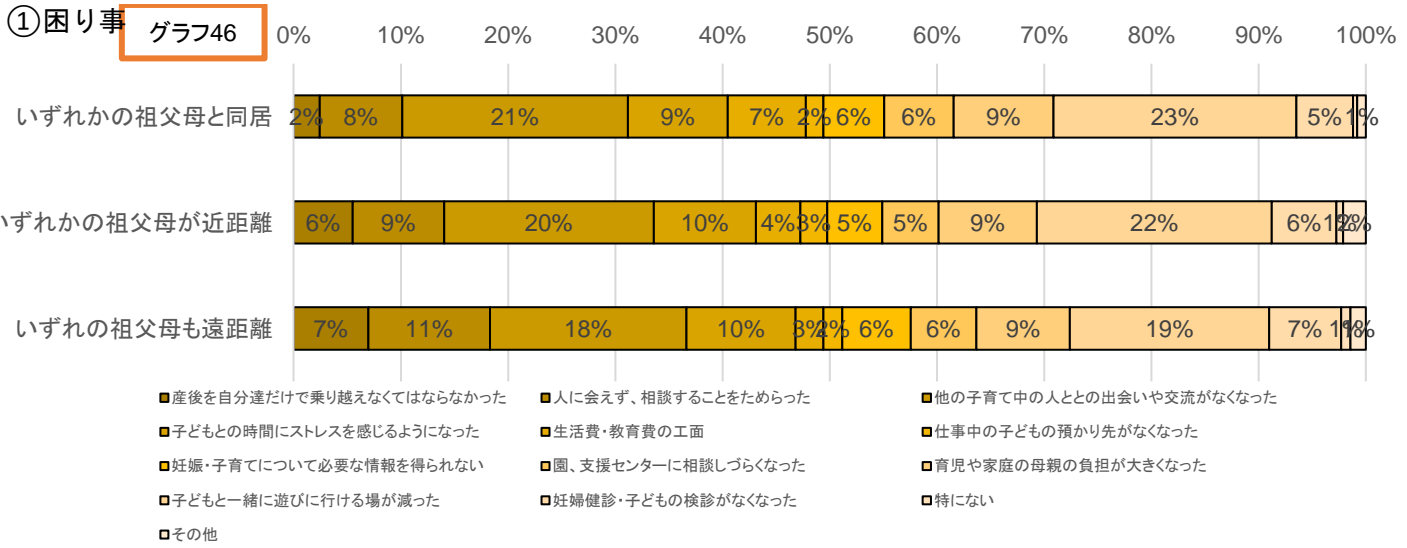
問10と問20によるクロス分析を行った。働いている者においてオンラインの講座・イベント・相談のニーズが2割程度ずつ確認された。

グラフ45



- 子育てを一緒に分かち合える仲間作り
 - コロナの影響に応じた税金の減免
 - 子育てしながら学べる就学支援
 - 同じ地域に住む先輩ママの体験談が聞ける
 - 「出産・子育て・働く」を切れ目なく支援する施設
 - 対面で悩みや不安を話し合う相談の場
 - その他
- LINEで子育て相談ができる
 - コロナの影響に応じた金銭的な援助
 - 子連れ出勤できる会社
 - 対面の妊娠、子育て講座・イベント
 - いつでも子どもを預かってもらえる
 - 産後の父親の育児確保
- 医療ケア児・多胎児・発達障害等の当事者同士が集まれる場
 - 妊娠出産すると無料で産前産後ケアが受けられる
 - 家事サポートや産前産後ケアが福利厚生としてある会社
 - オンラインの妊娠、子育て講座・イベント
 - オンラインでも悩みや不安を話し合う相談の場
 - 安心して外出できる情報提供

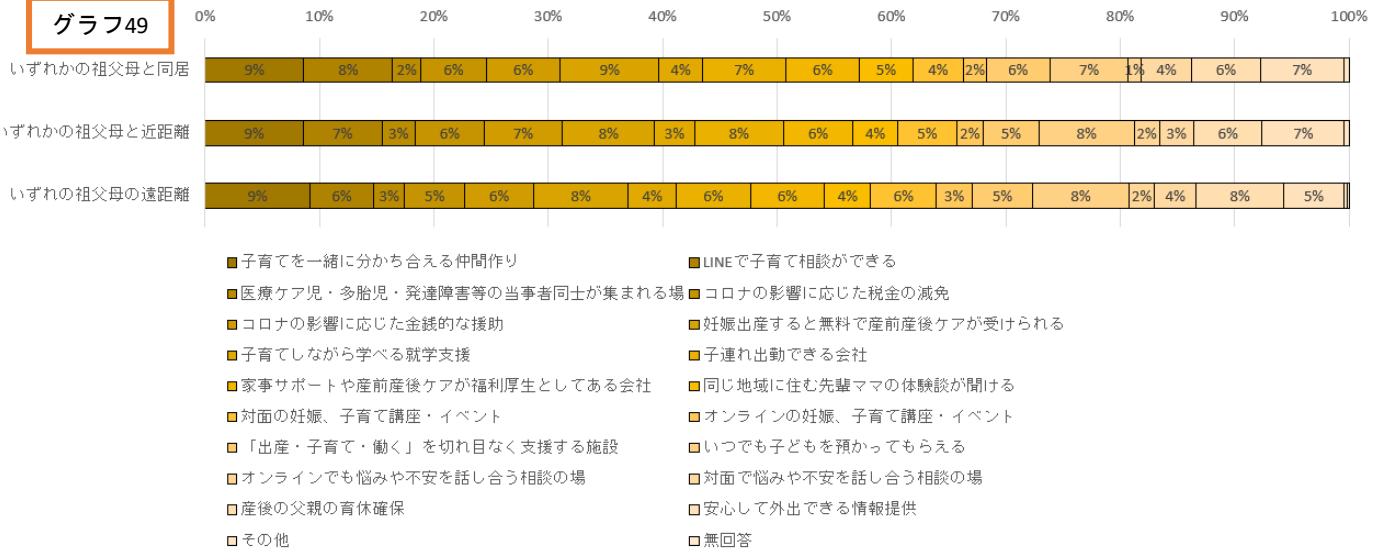
4 祖父母との距離を中心とした視点



全体的に祖父母との距離による大きな差はみられなかった。しかしながら①の困り事では同居群において「子どもと一緒に遊びに行ける場が減った」が他と比べわずかに多く、②不安感では同居群において「同じように子育てをしている人と出会えるか」が他と比べわずかに多く、③孤独感では同居群において「これまで会えていた人と会えなくなった」がわずかながら多かった。

④支援ニーズ

グラフ49

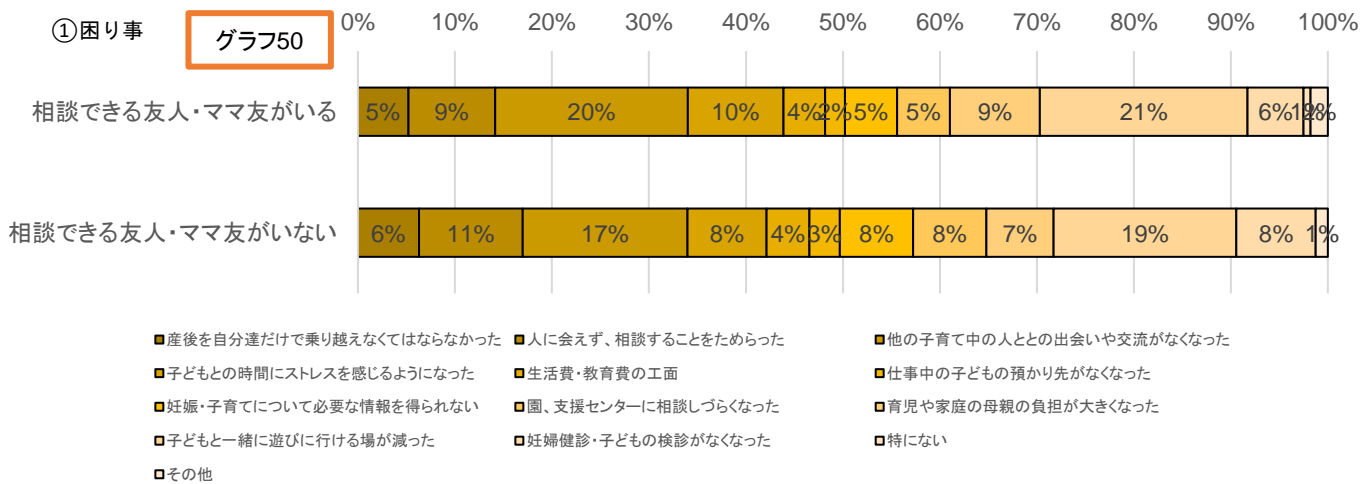


全体的に祖父母との距離感による大きな差は確認されなかった。「子育てを一緒に分かち合える仲間づくり」「無料の産前産後ケア」「いつでも子どもを預かってもらえる」の順に多かった。同居群においては「子育てを一緒に分かち合える仲間づくり」「無料の産前産後ケア」「LINE子育て相談」「いつでも預かってもらえる」「子連れ出勤できる会社」「安心して外出できる情報提供」の順に多かった。

5 ママ友の有無を中心とした視点

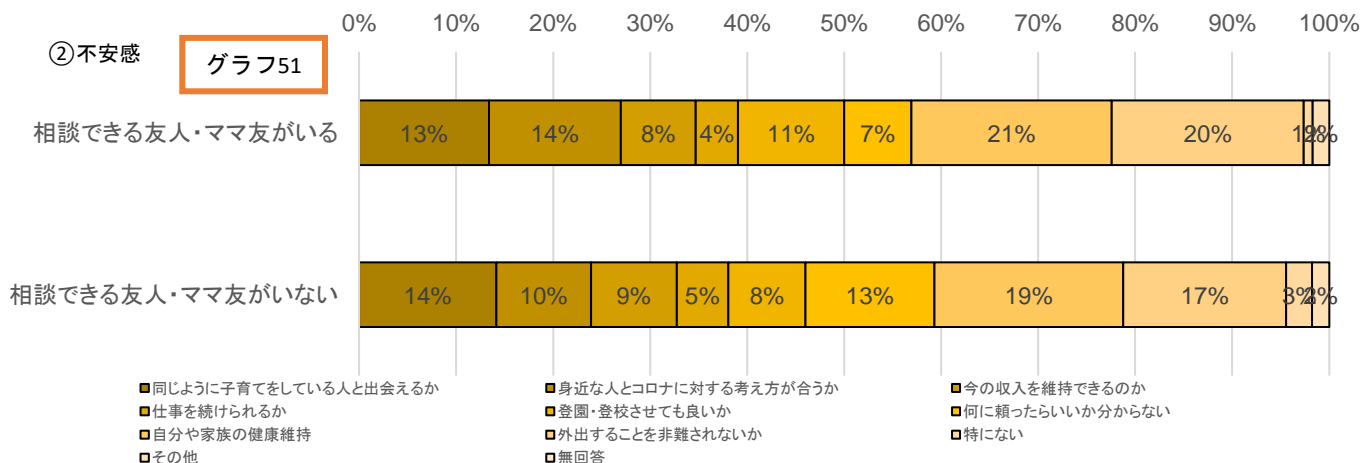
① 困り事

グラフ50



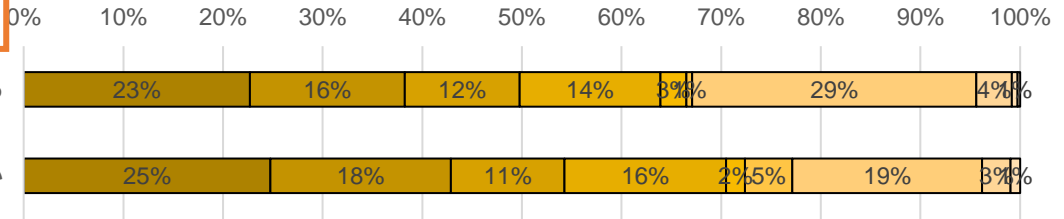
② 不安感

グラフ51



③ 孤独感

グラフ52

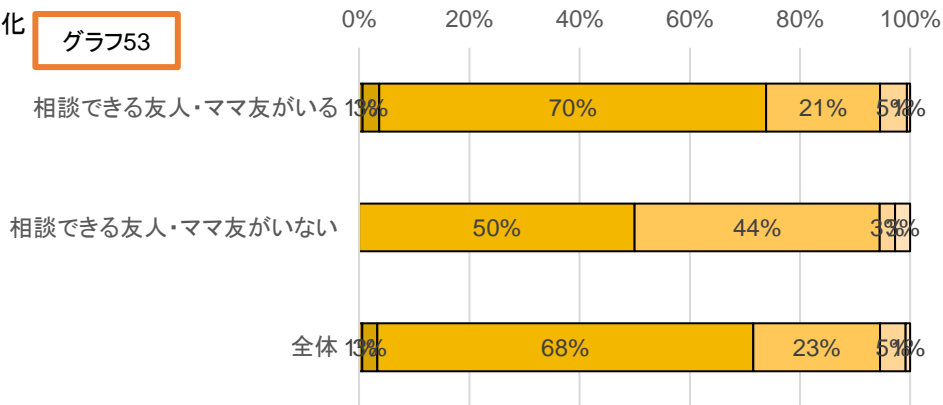


- 家族以外の大人と会話する機会がなくなっている
- 出産・子育てへの不安や喜び等を共感できる仲間に出会えない
- 一人で子育てしなければいけない感じがする
- 感染が不安で人に頼っていいかわからない
- コロナに関わる職業差別・誹謗中傷がある
- 悩みを相談できる相手がいない
- これまで会えていた人と会えなくなった
- 孤独感を感じることはない
- その他
- 無回答

問19において「相談できる友人・ママ友はいない」と回答した者とそれ以外を二分類して、①困り事 問15. ②不安感 問16. ③孤独感 問17とそれぞれクロス分析を行った。全体的にママ友の有無での大きな差は確認されなかった。②の不安感のママ友がない群において「何に頼ったらいいかわからない」が13%とママ友がいる群の7%に対して高かった。また③の孤独感のママ友がいる群においては29%が孤独感を感じることはないと回答している。

④ 収入の変化

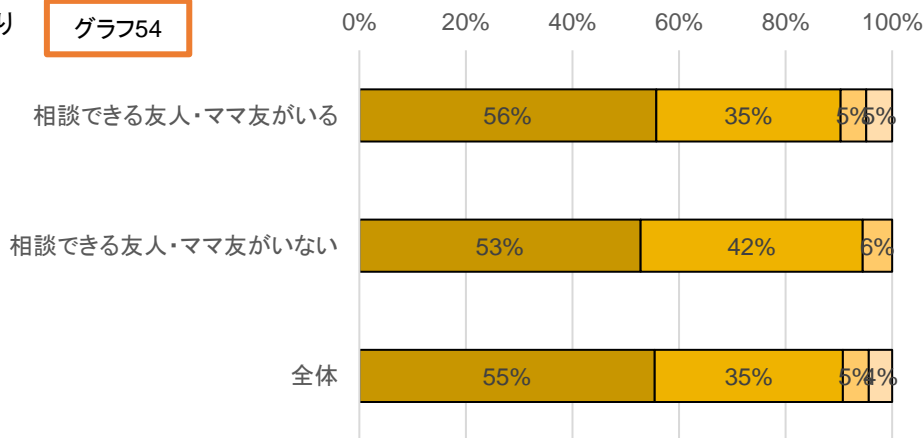
グラフ53



- 大幅に増えた
- 増えた
- 変わらない
- 減った
- 大幅に減った
- その他

⑤ 暮らしぶり

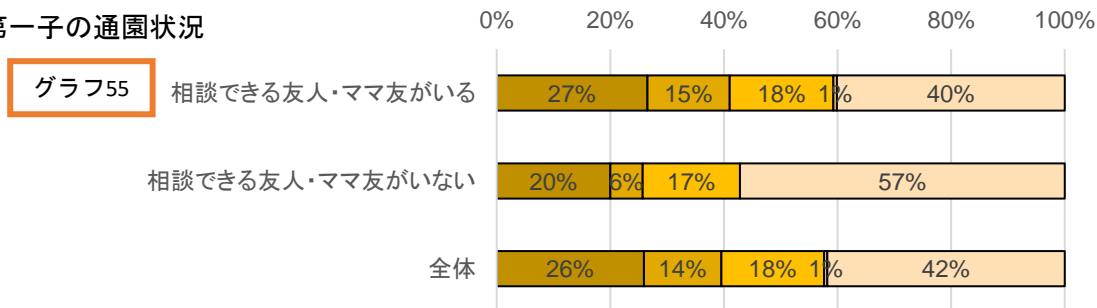
グラフ54



- 家計にそこそこゆとりがある
- 家計にゆとりがなくやや苦しい
- 家計のやりくりが大変で生活が苦しい
- 家計にゆとりがある

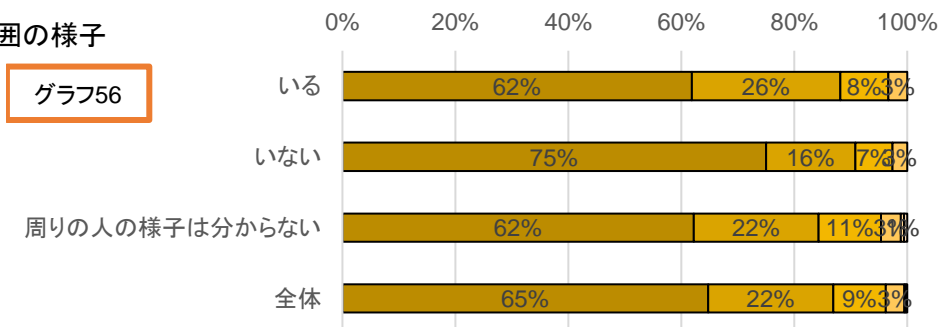
問12、問13とそれぞれクロス分析を行った。④においてはママ友がない群の方が収入が減ったとの回答が44%と2倍みられ、⑤においては「家計にゆとりがなくやや苦しい」42%「家計のやりくりが大変で生活が苦しい」との回答が6%と、ママ友がない群において暮らしぶりの悪化が観られた。

⑥ 第一子の通園状況



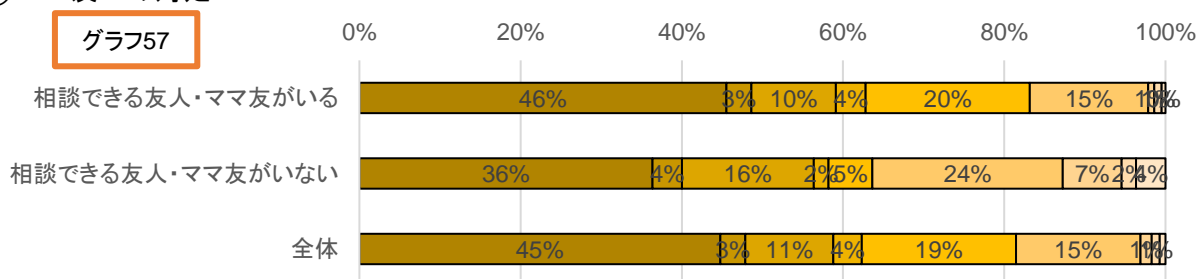
- 保育園 (小規模保育所・企業主導型保育園・こども園保育部含む)
- 幼稚園 (こども園幼稚部含む)
- 学校 (小・中・高・大学等)
- その他
- どこにも通っていない

⑦ 周囲の様子



- 毎日
- 2~3日に1度程度
- 1週間に2度程度
- 1週間に1度程度
- それ以下
- 無回答

⑧ ママ友への対処



- 話を聞く
- 子どもを預かる
- 何もしない
- 自分が支援者に相談する
- 一緒に出掛ける
- その他
- 必要そうな人や機関を紹介する
- 様子を見守る
- 無回答

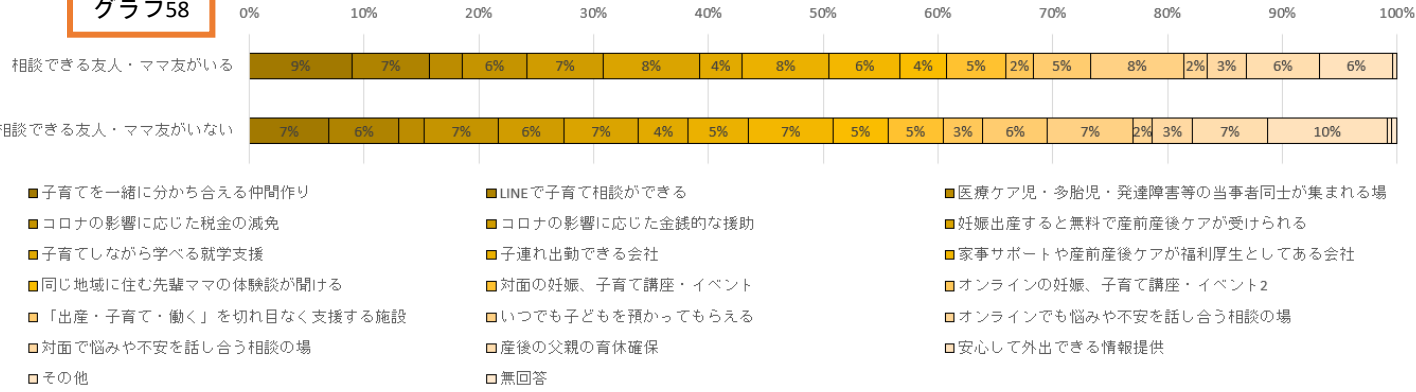
⑥ 問5子どもの通園状況とのクロス分析では、ママ友いない群において「どこにも通っていない」が6割弱を占めた。

⑦ 問21の周りのママ友の様子とのクロス分析では、全体的には5割弱が「周りの様子はわからない」と回答。ママ友がいる群においては3割強が「周りの様子はわからない」と回答している。一方でママ友いない群においては9割弱が「周りの人の様子はわからない」と回答している。

⑧ ママ友への対処としては全体的に5割弱が「話を聞く」と回答。ママ友がいる群においては2割が「一緒に出掛ける」と回答。一方ママ友がいない群では2割強が「様子を見守る」と回答、次いで16%が「必要そうな人や機関を紹介する」と回答。

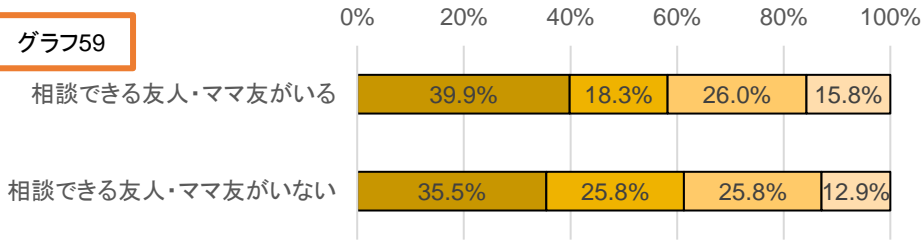
⑨ 支援ニーズ

グラフ58



⑩ オンラインニーズ

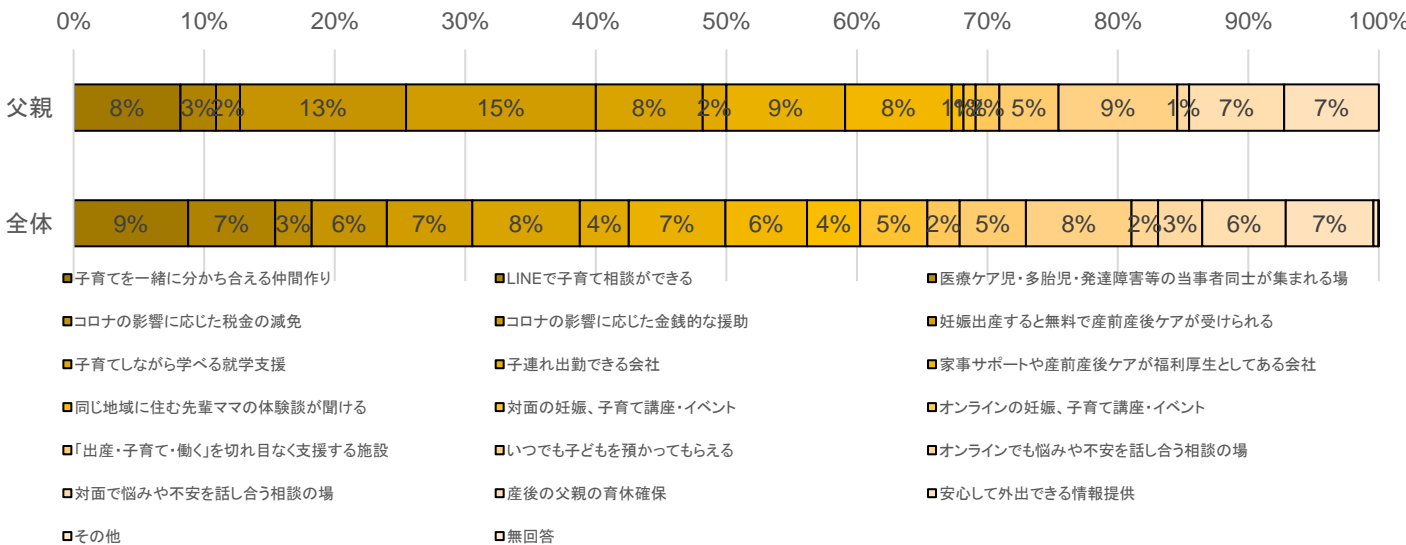
グラフ59



問21の支援ニーズとのクロス分析ではママ友がない群においては「安心して外出できる情報提供」10%「産後の父親の育休確保」「いつでも子どもを預かってもらえる」「無料の産前産後ケア」「仲間づくり」がそれぞれ7%であった。また、⑩よりママ友いない群に置いてオンラインでの講座・イベントも25%と求められていることもわかる。

6 父親を中心とした視点

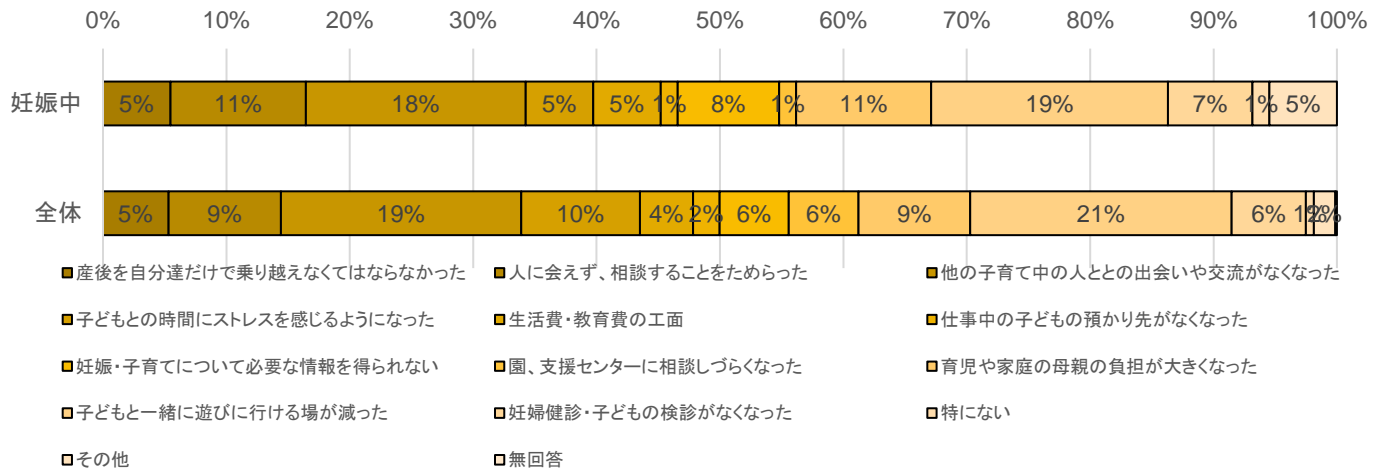
グラフ60



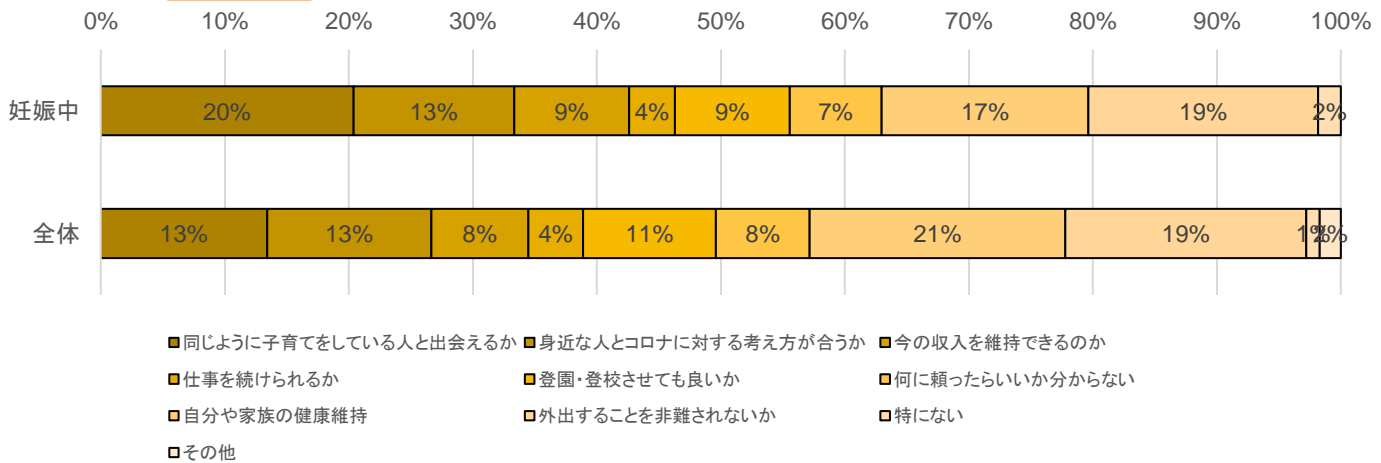
本調査の回答者のうち22人が父親であった。問21と父親とのクロス分析を行った。全体的には経済的支援へのニーズが高く、「コロナの影響に応じた金銭的な援助」「コロナの影響に応じた税金の免除」「無料の産前産後ケア」等の回答が多く観られた。また「いつでも子どもを預かってもらえる」「子連れ出勤できる会社」

7 妊婦を中心とした視点

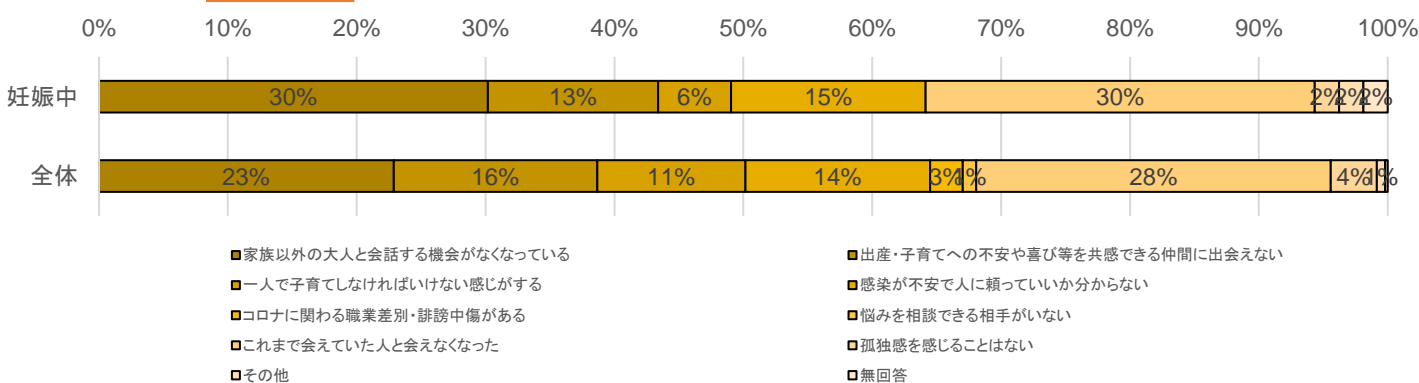
① 困り事 グラフ61



② 不安感 グラフ62



③ 孤独感 グラフ63



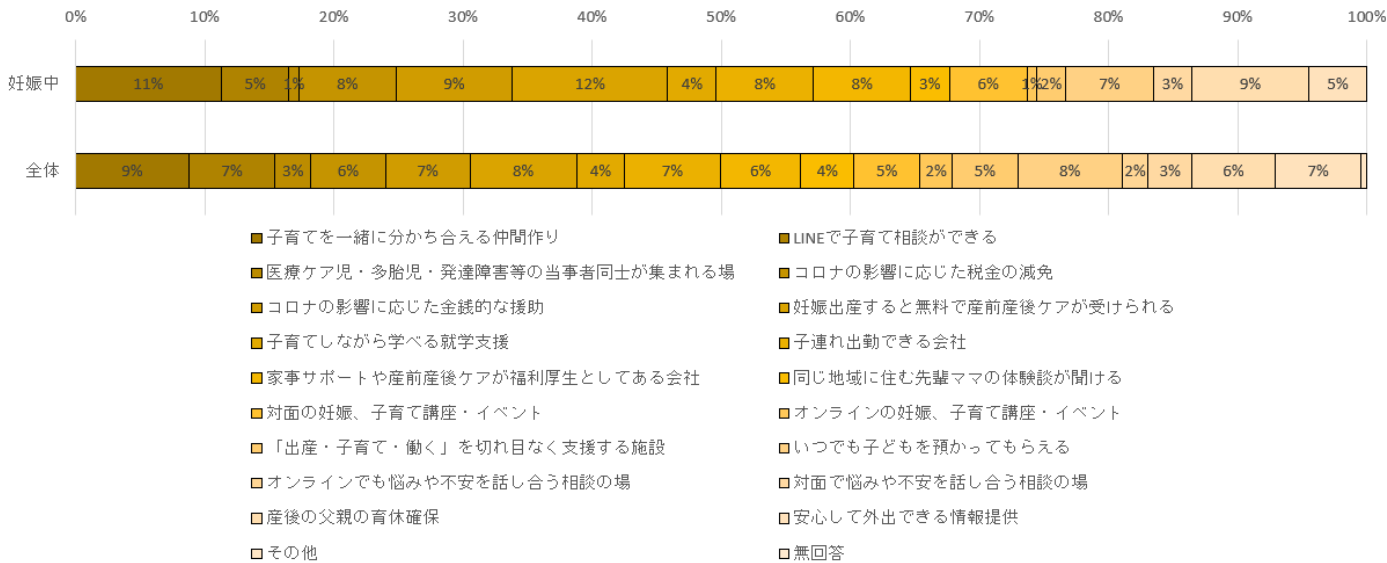
本調査における妊娠中の回答者は20人であった。その20人の妊婦のみを抽出しクロス分析を行った。全体としては、妊娠中だからといって特別な傾向は確認されなかった。①の困り事では「子どもと一緒に遊びに行ける場が無くなった」「他の子育て中の人との出会いや交流がなくなった」等が多く、妊婦特有のは「妊娠・子育てに関する情報が得られない」は8%「妊婦健診・子どもの検診がなくなった」7%であった。

②の不安感でも「同じように子育てをしている人と出会えるか」が20%で最も多かった。

③孤独感では「家族以外の大人と会話する機会がなくなっている」30%と多かった。

④支援ニーズ

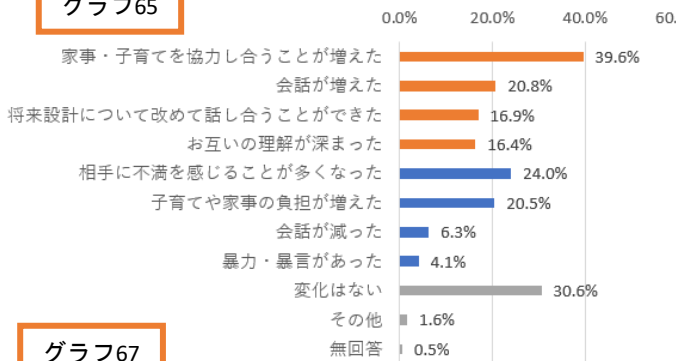
グラフ64



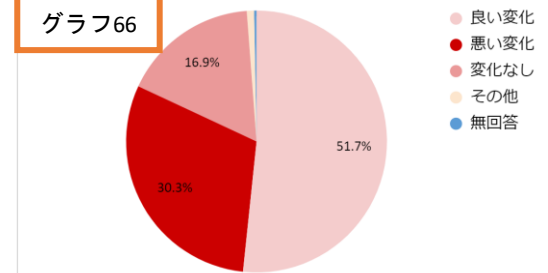
妊娠中の者における問31の支援ニーズとのクロス分析を行った。全体的に妊娠中だからこその傾向が確認されており、最も多かったのは「無料の産前産後ケア」12% 「子育てを一緒に分かち合える仲間作り」11%、「産後の父親の育休確保」9% 「コロナの影響に応じた金銭的な援助」9% 「家事サポートや産前産後ケアが福利厚生としてある会社」「子連れ出勤できる会社」「コロナの影響に応じた税金の減免」が8%で同率であった。

8 パートナーとの関係を中心とした視点

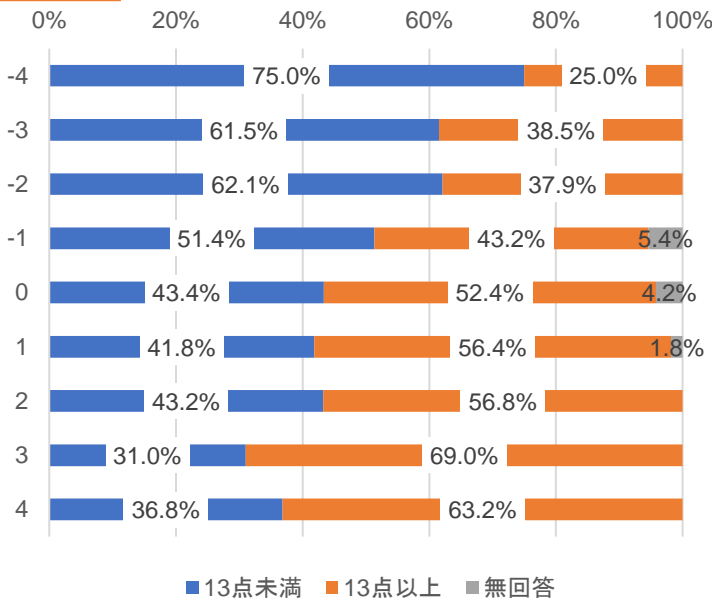
グラフ65



グラフ66



グラフ67

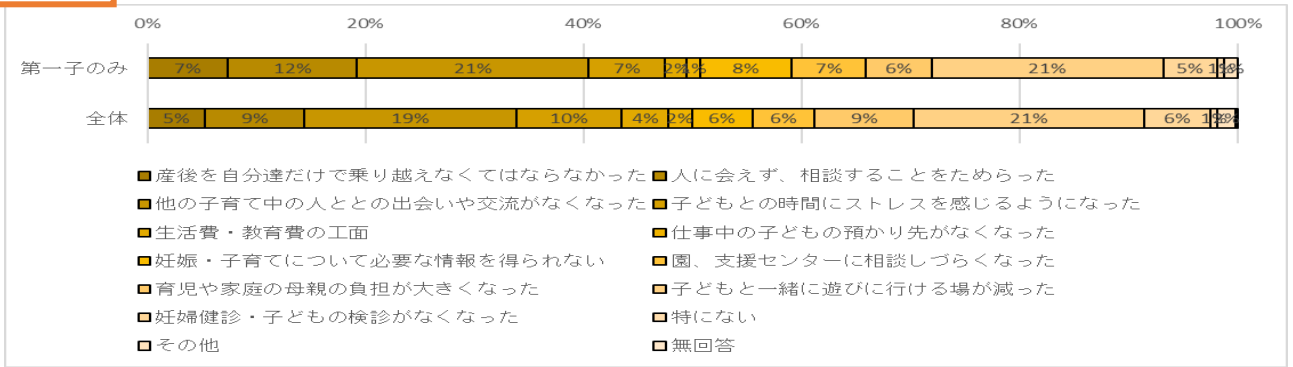


問33パートナーとの関係の変化に関し、それぞれの項目を良い変化、悪い変化に分類し（グラフ65）その割合を示した。（グラフ66）結果としては良い変化が5割。3割に悪い変化が観られた。更に、「変化はない」を0ポイントとし、良い変化を1~5、悪い変化を-1~-5としその差と精神的健康状態をクロスさせた。（グラフ67）ポイント4であっても精神的健康状態が13点未満の者が4割弱みられた。

9 コロナ禍の産後を中心とした視点

グラフ68

①第一子でどこにも通っていない児を育てている者の困り感



問4で一才半未満の子がいる人を抽出。問5と問15でクロス分析を行った。第一子がどこにも通っていない者の困り感としては「産後を自分達だけで乗り越えなくてはならなかった」「人に会えず相談することをためらった」「妊娠・子育てについて必要な情報を得られない」が多く観られた。

10 頼り先の有無を中心とした視点

表3

	全体	頼り先なし
核家族	318	142
三世代以上世帯	40	14
母子世帯	8	6
父子世帯	0	0
	366	162

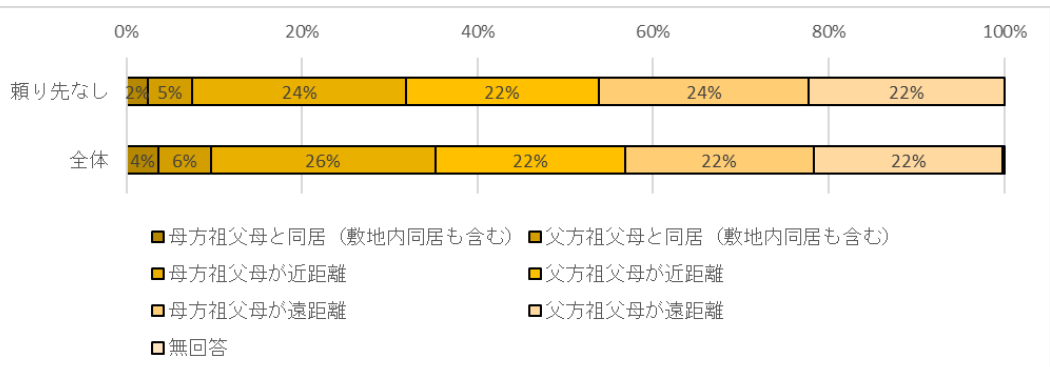
問23において一項目でも頼らないと回答したものを抽出し分析を行った。

その特徴としては未婚の母子世帯、祖父母との距離感もいずれも遠距離、家計にゆとりがなく苦しい状況であることが分かった。パートナーとのことや自分自身、家計においては相談先もない者も多いことが分かった。

表4

	全体	頼り先なし
結婚し、一緒に暮らしている	352	155
結婚しているが、別に暮らしている	4	0
結婚していないが、一緒に暮らしている	0	0
死別	0	0
離別	6	4
結婚したことがない	3	3
無回答	1	0
	366	162

グラフ69



グラフ70

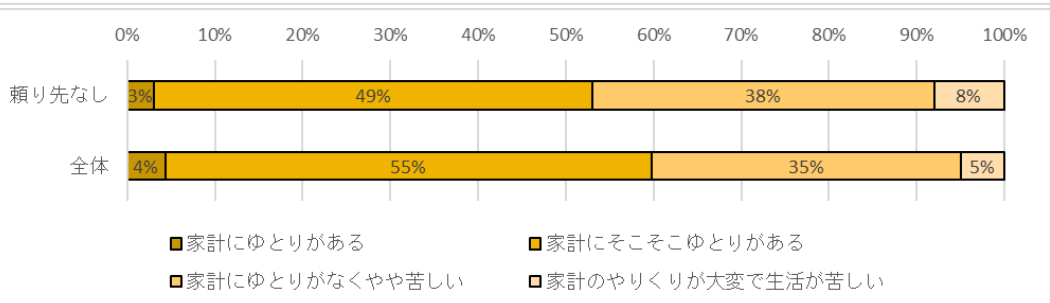


表5 相談先：パートナーについて

	全体	頼り先なし
1.配偶者・パートナー	76	22
2.実両親・義両親	170	66
3.兄弟姉妹	83	35
4.友人・ママ友	215	92
5.職場の人	44	15
6.助産師	7	0
7.保健センター・役所	4	3
8.保育園・幼稚園	1	0
9.子育て支援センター等	7	4
10.NPO等の地域の支援団体	4	1
11.オンラインコミュニティ	7	1
12.相談する必要がある	9	3
13.相談できる人はいない	26	20
14.そもそも相談できるところを	6	4
15.その他	2	1
無回答	6	1

表6 相談先：自分自身

	全体	頼り先なし
1.配偶者・パートナー	247	91
2.実両親・義両親	175	61
3.兄弟姉妹	81	34
4.友人・ママ友	197	84
5.職場の人	47	20
6.助産師	12	2
7.保健センター・役所	13	5
8.保育園・幼稚園	5	0
9.子育て支援センター等	14	8
10.NPO等の地域の支援団体	2	0
11.オンラインコミュニティ	7	0
12.相談する必要がある	7	3
13.相談できる人はいない	23	17
14.そもそも相談できるところを	7	5
15.その他	2	0
無回答	3	0

表7 相談先：家計

	全体	頼り先なし
1.配偶者・パートナー	262	103
2.実両親・義両親	87	30
3.兄弟姉妹	17	6
4.友人・ママ友	40	12
5.職場の人	11	3
6.助産師	0	0
7.保健センター・役所	2	0
8.保育園・幼稚園	0	0
9.子育て支援センター等	2	1
10.NPO等の地域の支援団体	0	0
11.オンラインコミュニティ	3	0
12.相談する必要がある	17	9
13.相談できる人はいない	35	23
14.そもそも相談できるところを	11	7
15.その他	7	6
無回答	7	1

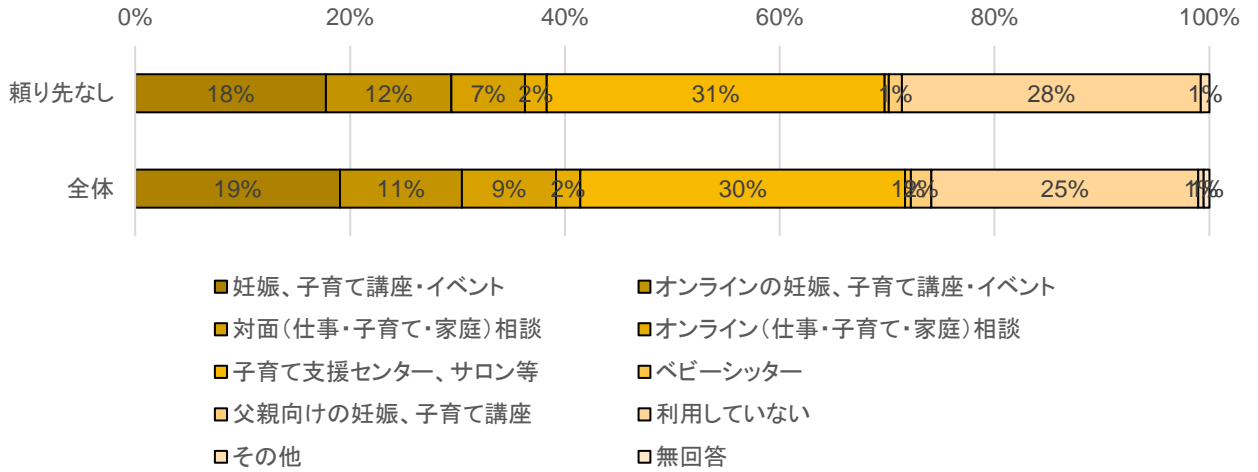
問18の相談先を問う質問においてそれぞれの項目の選択の内容と、特に問23において頼らないを選択した者を表に示した。全体的に1 配偶者・パートナー、2 実両親・義両親、3 兄弟姉妹、4 友人・ママ友を選択している者が多く、その傾向は同様である。特に12相談する必要がある、及び13相談できる人はいない、14そもそも相談できるところを知らない、を選択している者が多いことが分かる。特に表6の活計に関しては頼り先がない者が選択している割合が多く、収入が減少している状況にある者もいる中、その暮らしぶりなどへの影響が懸念されるところである。

表8

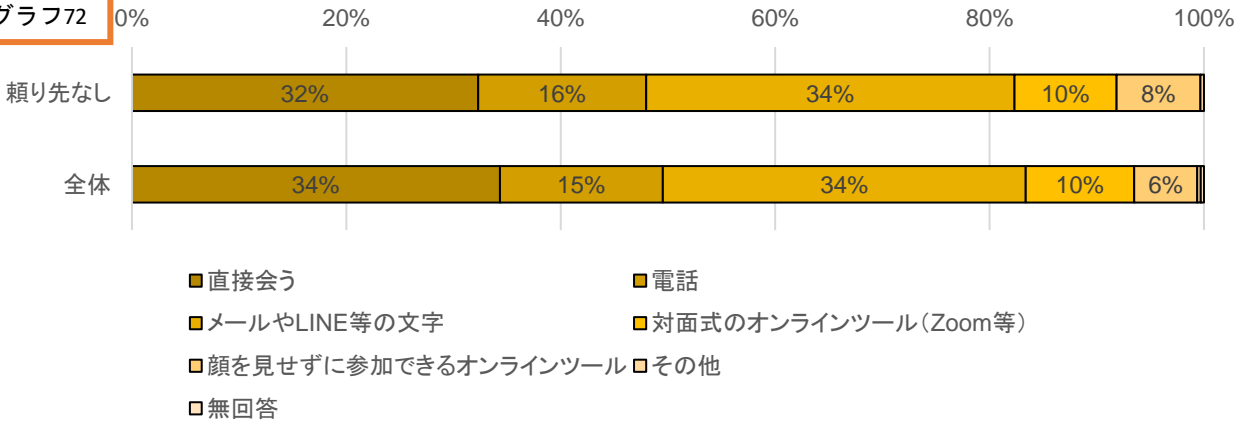
	全体	頼り先なし
会話が増えた	76	31
家事・子育てを協力し合うことが増えた	145	55
お互いの理解が深まった	60	18
将来設計について改めて話し合うことができた	62	23
会話が減った	23	14
子育てや家事の負担が増えた	75	41
相手に不満を感じるようになった	88	50
暴力・暴言があった	15	9
変化はない	112	50
その他	6	3
無回答	2	0
	全体	頼り先なし
良い変化	343	127
悪い変化	201	114

パートナーとの関係は悪化した者が多かった。支援の実状としては利用していない者が多いが支援センターやサロン利用者もいることも確認できた。相談手段としては顔をみせずに行うオンラインツールがニーズが若干高めであった。

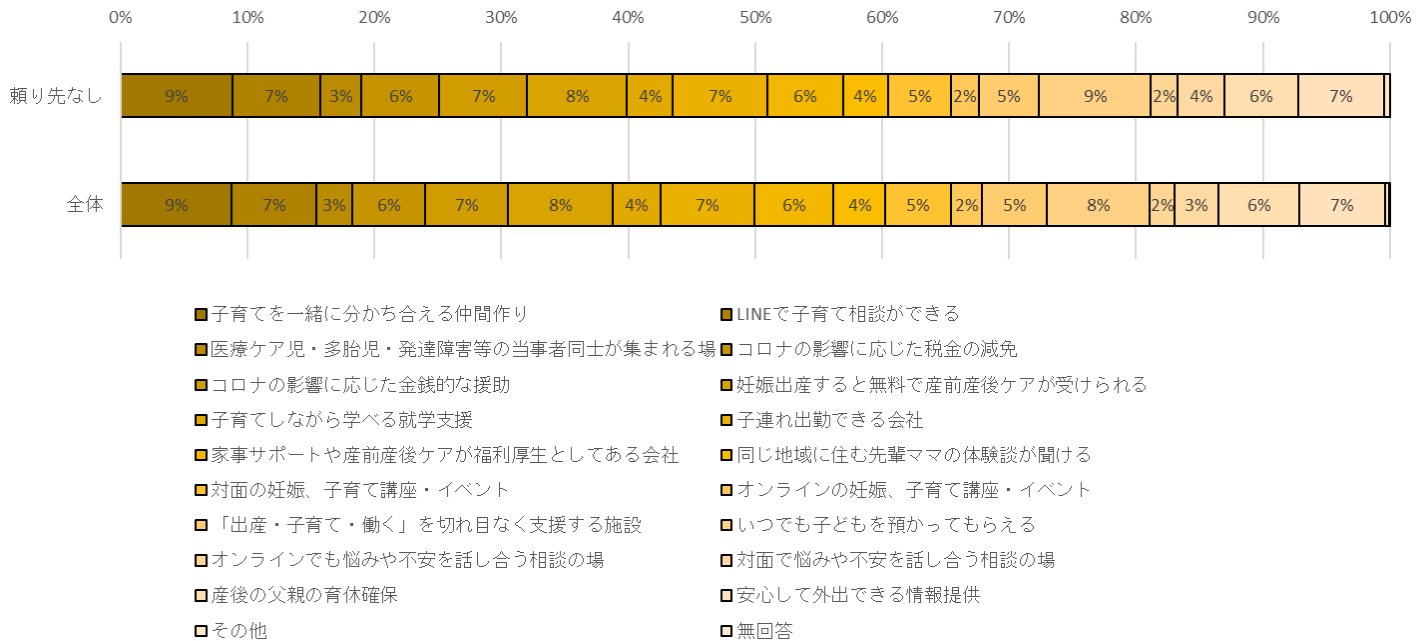
グラフ71



グラフ72



グラフ73



Ⅲ コロナ禍アンケート調査票

問1：あなたのお住いの市町村を教えてください。

- ・ 浜松市
- ・ 静岡市
- ・ 富士宮市
- ・ 富士市
- ・ その他（自由記述）

問2：あなたの年齢を教えてください

- ・ 20歳未満
- ・ 20歳～24歳
- ・ 25歳～29歳
- ・ 30歳～34歳
- ・ 35歳～39歳
- ・ 40歳～44歳
- ・ 45歳～49歳
- ・ 50歳以上

問3：現在の状況を教えてください。（複数回答）

- ・ 妊娠中
- ・ 子育て中の母親
- ・ 子育て中の父親
- ・ 配偶者・パートナーが妊娠中
- ・ その他（自由記述）

問4：お子様の人数を教えてください。（胎児は含まない）（自由記述）

問5：それぞれのお子様の年齢を教えてください

- ・ 第一子
- ・ 第二子
- ・ 第三子
- ・ 第四子
- ・ 第五子

それぞれについて

- ・ 0ヶ月～5ヶ月
- ・ 6ヶ月～11ヶ月
- ・ 1歳0ヶ月～1歳5ヶ月
- ・ 1歳6ヶ月～1歳11ヶ月
- ・ 2歳0ヶ月～2歳5ヶ月
- ・ 2歳6ヶ月～2歳11ヶ月
- ・ 3歳0ヶ月～3歳5ヶ月
- ・ 3歳6ヶ月～3歳11ヶ月
- ・ 4歳以上

問6：現在のお子さんの通園・通学状況について教えてください。

- ・ 第一子
- ・ 第二子
- ・ 第三子
- ・ 第四子
- ・ 第五子

それぞれについて

- ・ 保育園（小規模保育所・企業主導型保育園・こども園保育部含む）
- ・ 幼稚園（こども園幼稚部含む）
- ・ 学校（小・中・高・大）
- ・ どこにも通っていない
- ・ その他

問7：家族構成を教えてください。

- ・ 核家族
- ・ 三世代以上世帯
- ・ 母子世帯
- ・ 父子世帯
- ・ その他（自由記述）

問8：あなたとパートナーの状況について教えてください。

- ・ 結婚し、一緒に暮らしている
- ・ 結婚しているが、別に暮らしている
- ・ 結婚していないが、一緒に暮らしている
- ・ 死別
- ・ 離別
- ・ 結婚したことがない
- ・ その他（自由記述）

問9：お子様の祖父母世帯との居住地の距離を教えてください。（複数回答）

- ・ 母方祖父母と同居（敷地内同居も含む）
- ・ 父方祖父母と同居（敷地内同居も含む）
- ・ 母方祖父母が近距離
- ・ 父方祖父母が近距離
- ・ 母方祖父母と遠距離
- ・ 父方祖父母と遠距離
- ・ その他（自由記述）

問10：現在仕事はしていますか？

- ・フルタイムで働いている
- ・時短勤務、パートタイマー、アルバイトで働いている
- ・育休、産休中
- ・求職中
- ・学生
- ・仕事はしていない

問11：コロナ前後でコロナの影響によるあなたや配偶者、パートナーの仕事における最も大きな変化は何でしたか？

- ・大幅に増えた
- ・増えた
- ・変わらない
- ・減った
- ・大幅に減った
- ・その他（自由記述）

問12：コロナ前後でコロナの影響であなたの家族の世帯収入に変化はありましたか？

- ・家計にゆとりがある
- ・家計にそこそこゆとりがある
- ・家計にゆとりがなくやや苦しい
- ・家計のやりくりが大変で生活が苦しい

問14：WHO-5 精神的健康状態表（1998年版）を利用（日本語版はAwata et al., 2002）

設問「以下の5つの各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください」（5問）

1. 明るく、楽しい気分で過ごした
2. 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした
3. 意欲的で、活動的に過ごした
4. ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた
5. 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった

各設問に対して

- ・まったくない（0点）
- ・ほんのたまに（1点）
- ・半分以下の期間を（2点）
- ・半分以上の期間を（3点）
- ・ほとんどいつも（4点）
- ・いつも（5点）

のいずれかで回答

問15：コロナ禍での妊娠、子育てでどんなことに困りましたか？（複数回答）

- ・産後を自分たちだけで乗り越えなければいけなかった
- ・人に会えず、相談することをためらった
- ・他の子育て中の人との出会いや交流がなくなった
- ・子どもとの時間にストレスを感じるようになった
- ・生活費・教育費の工面
- ・仕事中的子どもの預かり先がなくなった
- ・妊娠・子育てについて必要な情報を得られない
- ・園、支援センター等に相談しづらくなった
- ・育児や家庭の母親の負担が大きくなった
- ・子どもと一緒に遊びに行ける場が減った
- ・妊婦健診・子どもの健診がなくなった
- ・特にない
- ・その他（自由記述）

問16：コロナ禍の妊娠、子育てでどんなことを不安に感じますか？（複数回答）

- ・同じように子育てしている人に出会えるのか
- ・身近な人とコロナ観が合うかどうか
- ・今の収入が維持できるのか
- ・仕事が続けられるか
- ・登園・登校させてもよいか
- ・何に頼ったらいいか分からない
- ・自分や家族の健康維持
- ・夫婦で共に子育てができるのか
- ・外出することを非難されないか
- ・特にない
- ・その他（自由記述）

問17：コロナ禍の妊娠、子育てでどんなことに孤独感を感じますか？（複数回答）

- ・家族以外の大人と会話する機会がなくなっている
- ・出産・子育てへの不安や喜びなどを共感できる仲間に出逢えない
- ・一人で子育てをしなければいけない感じがする
- ・感染が不安で人に頼っていいか分からない
- ・コロナに関わる職業差別・誹謗中傷等がある
- ・悩みを相談できる相手がいない
- ・これまで会えていた人と会えなくなった
- ・孤独感を感じることはない
- ・その他（自由記述）

問18：①～⑤それぞれの項目についてあなたが相談できる人や機関はどれですか？（複数回答）

- ①妊娠・出産 ②子育てのこと ③パートナーとのこと
④自分自身 ⑤家計

それぞれについて

- ・配偶者・パートナー ・実両親・義両親 ・兄弟姉妹 ・友人・ママ友
- ・職場の人 ・助産師 ・保健センター・役所 ・保育園・幼稚園
- ・子育て支援センター・ひろば等 ・NPO等地域の支援団体
- ・オンラインコミュニティ ・相談する必要がない ・相談できる人はいない
- ・そもそも相談できる場所を知らない ・その他

問19：コロナ禍で相談できる友人・ママ友とはどこで知り合いましたか？（複数回答）

- ・妊婦向け・子育て関連の講座・イベント ・支援センター・サロン・ひろば・児童館等
- ・職場 ・子ども、子育て関連以外の講座・イベント
- ・子どもができる前からの知り合い ・オンラインコミュニティ、SNS
- ・コロナになる前からの知り合い ・相談できる友人・ママ友がいない
- ・その他（自由記述）

問20：コロナ禍で妊娠・出産、子育ての相談はどのような形でしたいですか？（複数回答）

- ・直接会う
- ・電話
- ・メールやLINE等の文字
- ・対面式のオンラインツール（Zoom等）
- ・顔は見せずに参加できるオンラインツール（インスタライブ等）
- ・その他（自由記述）

問21：あなたの周りのママ友で子育てに行き詰っているなと感じた人はいますか？

- ・いる
- ・いない
- ・周りの人の様子はわからない

問22：ママ友が子育てに行き詰っているなと感じたとき、どのように対処していますか？（複数回答）

- ・話を聞く
- ・自分が支援者に相談する
- ・必要そうな人や機関を紹介する
- ・子どもを預かる
- ・一緒に出掛ける
- ・様子を見守る
- ・何もしない
- ・その他（自由記述）

問23：あなたは普段以下のような時、誰・どこに頼りますか？

- ・話を聞いてもらう
- ・日中子どもを預ける
- ・病気の子どもを預ける
- ・夜子どもを預ける
- ・自分が病気になった
- ・子どもの送迎をしてもらう
- ・家事を手伝ってもらう

それぞれについて

- ①配偶者・パートナー
- ②両親・義両親
- ③兄弟姉妹
- ④友人・ママ友
- ⑤医師、保健師、保育士等の専門家
- ⑥ファミリーサポートや家事代行等の各種サービス
- ⑦保育園・子ども園
- ⑧その他
- ⑨頼らない

問24：コロナ前後で自宅で過ごす時間は増えましたか？

- ・増えた
- ・減った
- ・変わらない

問25：仕事や買い物、散歩等を含めて、現在の外出する頻度はどのくらいですか？

- ・毎日
- ・2～3日に1度程度
- ・1週間に2度程度
- ・1週間に1度程度
- ・それ以下

問26：子どもと外出する場所はどこですか？（複数回答）

- ・保育園、幼稚園
- ・児童館、子育て支援センター、子育てサロン
- ・ショッピングモール
- ・スーパーマーケット
- ・公園
- ・子ども連れのイベント
- ・飲食店
- ・散歩
- ・その他

問27：コロナ禍で受けたサービスやサポートはなんですか？（複数回答）

- ・妊娠、子育て講座・イベント
- ・オンラインの妊娠、子育て講座・イベント
- ・対面（仕事・子育て・家庭）相談
- ・オンライン（仕事・子育て・家庭）相談
- ・子育て支援センター、サロン等
- ・ベビーシッター
- ・父親向けの妊娠、子育て講座
- ・利用していない
- ・その他（自由記述）

問28：子育てについて学んだ学生の存在は子育ての助けになると思いますか？

- ・はい
- ・いいえ

問29：子育てを理解して、声をかけてくれたり手を貸してくれる人が町中にいると子育てしやすいと感じますか？

- ・はい
- ・いいえ

問30：オンラインでもつながって、相談もできる地域限定の子育てコミュニティがあったら利用したいと思いますか？

- ・はい
- ・いいえ

問31：どのようなサービスやサポートがあったら良いと思いますか？（複数回答）

- ・子育てを一緒に分かち合える仲間作り
- ・LINEで子育て相談ができる
- ・医療ケア児・多胎児・発達障害等の当事者同士が集まれる場
- ・コロナの影響に応じた税金の減免
- ・コロナの影響に応じた金銭的な援助
- ・妊娠出産すると無料で産前産後ケアが受けられる
- ・子育てしながら学べる就学支援
- ・子連れ出勤できる会社
- ・家事サポートや産前産後ケアが福利厚生としてある会社
- ・同じ地域に住む先輩ママの経験談が聞ける
- ・対面の妊娠、子育て講座・イベント
- ・オンラインの妊娠、子育て講座・イベント
- ・「出産・子育て・働く」を切れ目なく支援する施設
- ・いつでも子どもを預かってもらえる
- ・オンラインでも悩みや不安を話せる相談の場
- ・悩みや不安を話し合う対面の相談の場
- ・産後の父親の育休確保
- ・安心して外出が出来る情報提供
- ・その他（自由記述）

問32： 妊娠・出産、子育てに関する情報はどこから得たいですか？（複数回答）

- ・友人、知人の口コミ
- ・ネット検索
- ・医師、保育士等の専門家
- ・テレビ、ラジオ
- ・Instagram
- ・LINE
- ・facebook
- ・Twitter
- ・Clubhouse
- ・オンラインコミュニティ
- ・育児雑誌、育児本
- ・その他（自由記述）

問33：コロナ禍でパートナーとの関係にどんな変化がありましたか？（複数回答）

- ・会話が増えた
- ・家事・子育てを協力し合うことが増えた
- ・お互いの理解が深まった
- ・将来設計について改めて話し合うことが出来た
- ・会話が減った
- ・子育てや家事の負担が増えた
- ・相手に不満を感じるようになった
- ・暴言・暴力があった
- ・変化はない
- ・その他（自由記述）

問34：コロナウイルスの影響が出て一年以上経過しましたが、この間どんなことを感じながら過ごしていましたか？相談したいことはありますか？自由に記入して下さい。（自由記述）